

# 財団法人日本タイ協會々報

第二十七號

昭和十七年三月

昭和十七年三月

法財團 日本タイ協會々報 第二十七號

法財團 日本タイ協會



財團 日本タイ協會々報第二十七號 目次

口 繪 寫 眞

一、駐日タイ國特命全權大使 デイレック・チャイヤナム閣下  
 二、昭和十七年一月二十三日華族會館に於ける本協會主催の日タイ攻守同盟成立祝賀並に新任タイ國大使歡迎晚餐會

卷 頭 言……………常務理事 川 村 博……………一

說 苑

日タイ同盟を祝して……………前駐日タイ國大使 ビヤ・シー・セーナ……………二  
 タイ國民よ、亞細亞は一である……………外務次官 西 春 彦……………七  
 タイ國經濟の歴史的考察(三)……………吉田榮太郎……………九  
 大東亞戰爭と日タイ外交……………駐タイ日本大使館書記官 岩 田 冷 鐵……………二五  
 日本觀光記……………岡崎學生觀光團員 ブロング・ウィタヤー……………三五  
 タイ國向定期國際放送…………………………四一  
 大東亞少國民座談會とタイ國の二少年…………………………四二  
 東南アジア圈輸送船舶體系…………………………四三  
 現代ビルマ印象記—タイ人の觀たる—……………ルアン・チャークラバーニ……………四四

資料欄

農業及び林業の相互關係(二).....ロバート・エル・ペンドゥルトン.....五一

タイ國の糖業問題.....藤澤好雄.....六二

タイ國の通貨政策再編成.....七二

昨年上半期盤谷港輸出入貿易と前年比較.....七四

タイ國の重要商品國別輸入高.....七五

對タイ日本輸入受託者.....七六

タイ米輸出概況(盤谷タイムス紙昭和十六年十一月二十二日).....七八

タイ國正貨準備(盤谷タイムス紙昭和十六年十一月二十二日).....七八

タイ國關係雜誌記事.....本協會調査部編.....八〇

雜報欄

タイ國、米英に宣戰布告.....八四

在タイ帝國大使館聲明.....八四

タイ國宣戰と坪上大使.....八五

タイ軍ビルマ領へ進撃開始.....八五

セナ前駐日タイ國大使歸國.....八五

ディレック大使信任狀捧呈.....八五

軍票と南方諸地域通貨政策.....八六

過剩南方米貯藏方針.....八六

英機再び盤谷を空襲す.....八七

南方諸國輸移出米數量.....八七

ビョン首相戰爭目的と抱負を語る.....八七

我が首相外相にタイ國勳章.....八七

タイ戰時豫算二億餘銖可決.....八八

タイ新金本位制を採用す.....八八

日タイ學生交換協定成立.....八八

日本厚生協會主催座談會.....八九

タイ國留學生招待豆撒.....八九

講談社の新タイ國大使招待.....八九

タイ佛印國境一部劃定.....八九

駐タイ大使館陸軍武官更迭.....八九

外務省辭令.....九〇

タイ國政變と内閣改選.....九〇

濠洲タイ國に宣戰布告.....九〇

大東亞戰爭マレー・タイ・ビルマ戰誌.....九一

協會記事





駐日タイ特命全權大使 下閣ムーナヤイヤチ・クレイデ

秩父宮殿下メッセージ	九三
アーテイト殿下御返文	九三
ディレック大使歓迎並に日タイ攻守同盟祝賀晩餐會	九四
名譽會長の更迭	九八
セナ前泰國大使閣下送別宴	九八
石井參事官の歡迎午餐會	九八
矢田部理事長の歸朝	九九
タイ國專賣局長官一行招宴	九九
情報局補助金第四回分下付	九九
拓務省補助金下付	九九
臺灣總督府補助金下付の件	九九
タイ語講習會開催	九九
會報の發行回数増加	〇〇
泰國留學生を大相撲に招待	〇〇
會員の異動	〇〇
會員の消息	〇一
寄贈圖書	〇二
購入圖書	〇三
編輯後記	〇四

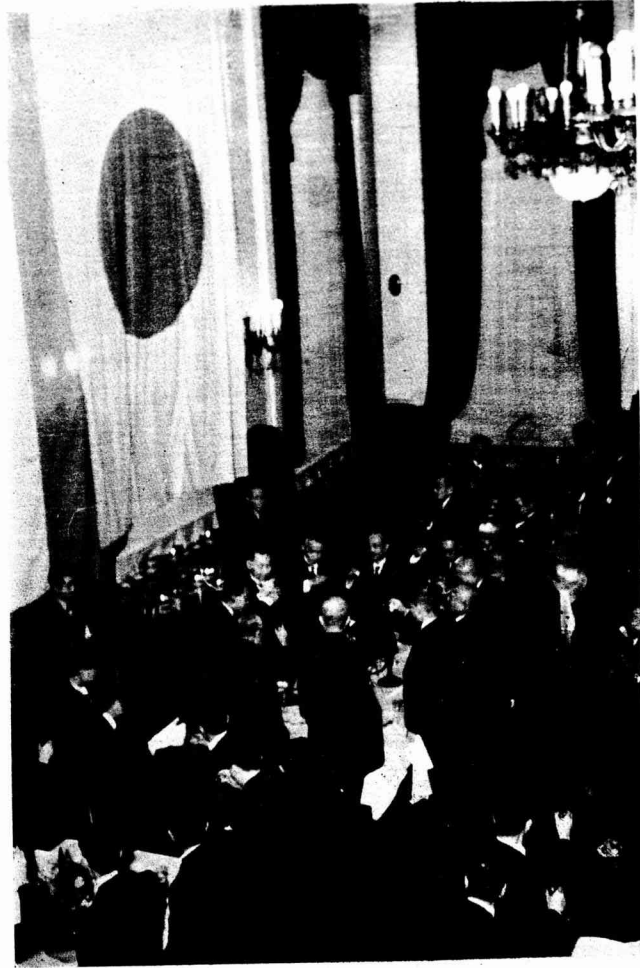
卷頭言

大東亞戰爭とタイ國

日タイ同盟は大東亞戰爭の劈頭をかざる我が外交の一大成功である。マレー作戰はこれによつて促進せられ、東亞解放戰の意義はこれのために力づく中々に宣揚せられた。しかも同盟は一朝にして出来たものでもなければ、不自然にできあがつたものでもない。自由タイ國建設の熱意にもえた立憲革命の指導者達は、すでに久しくわが東亞解放の正しき理念と實力とを認識し、帝國とともに立つべき時機の到来を期してゐた。今やその時が来たのである。本會報にかゝつたブライヤー・シーセナー前大使の論文と帝國大使館岩田書記官のラジオ放送講演は、ともにこの點を強調してゐる。

わが作戦の雄大さと國軍錬成の周到さは、眞に驚嘆すべきものであるが、タイ人のわれに對する認識を多年開拓してきたつて、その今日あるを得しめたわが外交上、文化工作上の用意も亦この際見逃がすべきでない。戰爭の進展に併行して東亞各部に對する外交上、政治上の經綸が強力に遂行せられねばならぬ。赫々たる戦果に對して建設工作の貧困を來してはならぬ。今や朝野の大なる關心がこれに向けられつゝあるは意を強ふ所であるが、日タイ關係についてこの際我等の最も期待するところは、大東亞建設の具體的構想において日タイ兩國民各己の期待し要望し且つ企圖するところに、いやくも齟齬間隙を生ぜしむることなく、兩者の遺憾なき融合一致をとげて、東亞解放戰の眞面目を著々具現するにまつべきことである。

本會常務理事 川村 博



昭和十七年一月二十三日華族會館に於ける本協主催の日タイ國使節歓迎會餐



### 日タイ同盟を祝して

前駐日タイ國大使 ブラヤー・シー・セーナ

*Phya Si Sena*

本篇は昭和十二年十月駐日タイ國公使として本邦着任以來在任四ヶ年餘、昭和十五年日タイ兩國公使館昇格と共にタイ國初代駐日大使として今日に及んだブラヤー・シー・セーナ氏が、今回任滿して歸國するに當り匆忙裡特に筆を執つて本會に寄せられたものである。原文英文なるを、本會に於て和譯した。(編輯者)

### 第六世紀に始まる日タイ通交史

タイ國と日本との間に初めて交渉を生じたのは、今を去る千四百年の昔であつた。當時タイ人は支那を経て日本と通商關係をひらく爲め遙々日本に渡航を試みんとしたのであつた。日本書紀によれば、欽明天皇の四年(西曆五四三年)九月、日本朝廷に南詔國から貢物が送られたと記録されてゐる。これが即ち日タイ通交史の抑々の起源である。

西曆五五二年佛教が日本に傳來し、この尊い宗教の熱心なる歸依者達は、タイ國を以て佛教の聖地と見なすやうになつた。この事が興味を唆つて、商人達のタイ國渡航を促がすに至つた。佛法に歸依せられた高岳親王は、教法の深奥を究めんがため、長年月にわたり、南支那を遍歴せられた後、タイ國を通つて印度に向はれんとした。然るに不幸にして親王は目的地に達せられず、従つてその高邁な使命を果されずして、タイ國で薨去された。それは今から千七百十有餘年前のことであつた。

當時一國から他國への交通には相當の日月を要した。況んや通商交易の仕事は容易でなかつた。それにも拘らず十四世紀から十五世紀を通じてタイ國の貿易船が屢々日本を訪れたといふことが記録に残つてゐる。一三八八年ポロム・トライロク・ナート王の治世に、タイ國の正式使節が渡日して、一年間滞在見學した。その後一三九一年にタイ國の國書が朝鮮に送られ、これに續いて更に一回タイ國使節が同國に赴いた。十五世紀の初葉にはタイ國の貿易船が琉球の諸港に往來するやうになつた。この時分から多數の大小貿易船が寺院關係の通商業者や一般商人によつて伊勢其他日本西南部の諸港で建造された。そして日本と朝鮮、支那、トンキン、カムボヂヤ、タイ國等の間に貿易關係が開かれた。降つて十六世紀の中葉には、葡萄牙がその勢力を東洋に伸張し來り、一五四三年同國の貿易船が九州に現れ、一五七〇年西班牙船がこれに續いた。同じ頃日本はこれら西洋諸國の船舶に劣らぬ巨船を建造して南方諸國と交易し、またルソン、トンキン、アンナン、ジャバ、アヌタヤ等の各地に植民した。アヌタヤは當時のタイ國首都

である。以上は往年の日タイ交通史の一斑を略述したに過ぎない。

かくして日タイ兩國間の通商交通が愈々確立するや茲に兩國間の正式國交が開始された。即ち一六〇六年徳川家康は書をタイ國に贈り、友好和親を求めた。これに對しタイ國は官船を長崎に送り、その使節が將軍家康に謁した。時に一六一二年八月であつた。その後タイ國は一六二一年、一六二三年、一六二五年及び一六二九年の四回に互り使節を日本に派遣してゐる。兩國の公式關係は、日本の鎖國政策によつて休止されたが、通商交通は尙ほ存続した。

### 近世に於ける日タイの親善關係

山田長政は十七世紀初期に於けるタイ國史中に重要な役割を演じた日本人である。長政は既に十六世紀の末期アユタヤに土着し、ソントム王の治世中、同朝宮廷の重要官位に就いた。前述した日本に對するタイ國使節の派遣は、實に彼れ長政の發意斡旋によるものであつた。長政の傳記は兩國の人口に膾炙する所である。彼は單に兩國の通商貿易について貢獻したのみならず、一個の有力な政治家としてタイ國宮廷に重きをなしたといふ點でも有名である。長政はアユタヤ侵寇のビルマ軍を驅逐すべく、日本人軍隊を指揮し、タイ國軍と共同して闘つた。後彼はナコン・シタマラートに於て日タイ聯合軍の總指揮官として南タイ・ペタニーのマレー軍と闘ひ、大勝を博した。彼はタイ國王からオヤ・セーナー・ビモック、後にチャオ・ブラヤー・ナカラといふ最高の官位稱號を與へられた。山田長政の武勳と功勞はタイ國人の水へに忘れ得ざる所で、その功業を記念すべく、アユタヤのチャオ・ブラヤー河に臨む長政の舊邸宅構内に一基の鳥居が建立され、タイ國功臣オヤ・セーナー・ビモック即ち山田長政が往昔曾つて此處に住したといふことを道行く人に語らしめてゐる。以上は通商、政治、軍事にわたる近古日タイ關係の概略である。

厳格な意味に於ける兩國の外交關係は、ラーマ五世即ちチュラーロンコン王の時代、日本でいへば明治時代に始まる。兩國使節は東京及びクルンテープ（バンコク）に常駐公使として交換され、爾來何等の故障も中斷もなく今日に及んでゐる。しかも昨年八月兩國公使館が大使館に、公使が大使に昇格したことは御慶の至りである。斯かる兩國の傳統的友好關係は、十年前タイ國が現政體に誕生して以來、彌やが上にも親善の度を加へて來た。今や國民主義精神はタイ國の全土に普く昂揚せられ、タイ國民は日本を範として、タイ人のタイ國建設に邁進してゐる。

### 日タイ攻守同盟締結の意義

近年に於ける兩國外交關係の進展は目覺ましきものがある。まづ一九三七年日タイ友好通商航海條約が調印され、續いて一九四〇年友好關係の確證と相互の領土尊重を約する友好和親條約が締結された。更に兩國間の重要問題の一つは、タイ佛印國境紛争調停に關する東京會議であつた。會議は圓滿に終了し、その結果タイ國は失地を回復するこゝとが出来た。この東京平和條約は一九四一年調印された。これと前後して日タイ定期航空協定及びクレヂット設定に關する協定等が成立した。これら續々として相繼ぐ外交的成功裡にあつて最大且つ重要なものは、日本が米英に宣戰を布告して三日の後、バンコクで調印された日タイ攻守同盟條約であつた。

日本タイ協會は右同盟條約の成立に對し、敢て異としなかつたであらう。實は此の種同盟の締結に就ては、既にその以前から機運が醸成せられつゝあつたのである。日タイ兩國の事相について眞の理解をもつ人々は、タイ國が早晚日本の同盟國となる日の到來すべき事を豫知してゐたのである。然るに他の一群の人々は事實を直視せず、その見透しを誤まり、あらゆるなき方向に馬を驅るべく狂奔して徒らに具眼者の行動を妨げ、第三者の神經を混惑せしめた。

その爲め日本は「隱忍自重」、タイ國は「靜觀待機」を餘儀なくせらるゝこと既に久しく、吾々はこれを幾度か遺憾としたのであつた。然るに遂に時は來つた。日本紀元二千六百年十二月八日の晴れやかなる早曉、「忍耐」も「待望」も最早や不必要になつたのである！

大東亞の盟主は遂に降魔の利劍を抜いた。鐵帶は忽ち戰車の堅輪の上に輻りはじめた。よく手入れされ裝具された白馬は、悠々あせらず引き出されて、兵車に取付けられた。正義の兵車は動き出した。そしてこの盟主は地球の表面上何處にもその比を見ざる勇氣を顯示した。兵車一度び進發するや、最後の目的地、即ち東亞の平和と安定を樹立して、そこに大共榮圈を確立するまでは、東亞の空の暗雲を捲上げつゝ突進また突進することを斷じて止めないであらう。

日本とタイ國が單に手と手を取り合ふだけではなく、心と心とが融合して一身同體となり、今日以後この日タイ同盟を基礎として、あらゆる困難と障害を克服しつゝ堂々と邁進し得るに至つたことは、日タイ兩國のため眞に慶祝に堪へざる所である。

## タイ國民よ、亞細亞は一である

—二月廿八日第一回日タイ交換放送において—

外務次官 西 春 彦

盟邦タイ國の諸君！ 今回タイ國と我國との間に交換放送が開始せられましたことは日タイ兩國の親善及同盟關係の愈々固きことを示す證左として誠に慶賀に堪へない處であります。

願れば今回の對米英戰爭以前に於きましても日タイ兩國は夙に親密なる友好關係を保ち、手を携へて進んで参つたのであります。其間過去數世紀に亘りアジアの抑壓者、搾取者であつた米英兩國側より此の日タイ兩國の友好を攪き亂さんとする様々の策動が行はれたこと一再に止まりません。

然るに昨年末アジア解放の戦が始せられるや聰明なるタイ國々民はビブン首相閣下の英斷に依り此の種米英の魔手を排し、大東亞の理想の爲敢然として起ち上り勇敢なるタイ國將兵が日本軍將兵と肩を並べてアジア解放の旗を進めつゝある事は我々日本國民の欣快に堪へない處であります。古代に於て光輝ある文化を有したアジア諸民族を數百年の永きに亘つて抑壓搾取し來り遂にその生命をも絶たんとせる侵略者の手よりアジアをしてその本來の姿に還し、新しき文化と正義に基く永遠の平和を確立することが我々の戦の目的なることを考ふれば、このアジア解放の戦を戦ひぬくことは東亞に於ける獨立國民たる日タイ兩國國民に天より課せられたる共通の任務と云ふべきであります。



既に我々の先覚者達はその深き洞察に基き『アジアは一なり』と叫んだのであります。アジアは一つである、米英の策動と壓迫も一時としてアジアの諸民族の究極と普遍とに對する廣大なる愛を阻むことは出来ず、我々アジア諸民族は常に共通の思想、共通の文化を保有して参りました。而して今次の戦争に於てアジアを解放し、アジアをしてアジア本然の姿に還らしむることは日タイ兩國民に等しく課せられたる歴史的使命なのであります。

若し萬一此の戦に於て我々が敗れるやうなことがあれば、アジアは永遠の奴隸状態に突き落され、今日迄我々が繼承して來た深遠なるアジアの精神と文化とは永久にこの地上から消滅するであります。されば我々兩國民はあらゆる困難を共にしつゝ最後の勝利を戦ひ取るまで戦ひ抜かねばなりません。又我々は之を戦ひ抜き得る確信を有するものであります。現に我々は既に絶對不敗の地歩を確立しつゝあります。我々共同の戦ひが開始せられてより僅かに三ヶ月に過ぎませぬがこの間に香港、グアム、ウエーキ、フィリッピン、ボルネオ、セレベス、マレー、スマトラ等の敵の據點は盡く我等の手に落ち、近くは英國が難攻不落を誇つたアジア抑壓の據點シンガポールも陥落し、新しきアジア建設の曉鐘は高らかに鳴り響きつゝあるのであります。今や日タイ兩國民は往昔のアジアの偉大と光榮とを再建する爲矛を揃へ楯を並べて新東亞建設の正しき巨歩を進めつゝあるのであります。

かゝる状態に狼狽せる米英側は、躍起となつて根據無き、夢の如き宣傳を執拗に繰返して居る模様であります。タイ國政府及國民が斯る淺薄なる策動に迷はされること無く敢然日本國民と共同の大理想に向ひ邁進し居られるのを見まして日本國民は常に敬服の念を禁ずることを得ないのであります。

アジア人の氣持はアジア人同志が一番よく解るのであります。私はこの交換放送の開始に當りまして、この放送がアジアの兄弟同志である日タイ兩國民間の水イラズの語らひの聲となることを望むものであります。

## タイ國經濟の歴史的考察 (三)

吉田 榮 太郎

### 一〇、タイ經濟の近代的發展 (二)

産業革命を契機として、ヨーロッパ資本主義諸國の經濟は最高頂の發展段階に達した。中でも生産技術の進歩は資本主義的發展に對して決定的役割を演じた。

すなはち近代的機械技術の採用と同時に生産規模はいちゞるしく擴大し、その結果は必然的に過剰生産、過剰資本を齎らした。かくて十九世紀の中葉において、その内在的矛盾を解決するために激烈なる植民地戦争が惹起され、白人諸國の野望は天與の資源を無限に包蔵する南洋にその鋭鋒を向けるにいたり、従來の平和的な、南洋民族の原始的經濟生活は次第に崩壊し、あるひは驅逐されて、かれ等の植民地に變貌した。タイ國もまたかうした世界經濟大變亂の渦中から免れることは出来なかつたのである。

すなはちタイ國が十九世紀の中葉、イギリスの狡智に長けた餌食に迷はされて自由貿易制を實施してより、次々にヨーロッパ勢力の滲潤によつて半植民地的型態をとるにいたつたことは、すでに前項に於て縷説したとほりである。さらに一八九三年バーンコーク、パクナム間に鐵道が敷設されてより國內交通路はめざましき發展をとげ、道路は

國內の主要部を縦横に走り、郵便、電信、電話等の近代的諸施設も確立し、國內の政治經濟機構は次々に整備されてタイの傳統的性格は悉くその相貌を變へるにいたつた。

しかしその反面、一九世紀より二十世紀初頭にわたつてフランスは老大なる大印度支那王國建設の目的のために瀕りにタイの東部邊境を劫掠し、たちまちにしてタイの國土は半滅せしめられた。イギリスも表面では人道的言辭を弄しながら、蔭では絶えず經濟的壓迫をつづけてきた。

タイ民族は本來獨立自主の精神に富む自由の民であつたことは、タイといふその名の示す如く歴史的にも明らかであるが、上述の如くタイ民族の傳統的性格は暴戾きはまる白人侵略者によつて蹂躪されつくし、近世史上一大汚辱が刻印されるにいたつた。かくてタイの政治經濟は悉くイギリスへの依存を餘儀なくせしめられることとなつたのである。

さらに近代的發展の推進力として、タイ經濟の重要な部分を占め、農民に對して絶えず奪取的取引を試み、國家資本の蓄積を阻げるべき役割を演じつづけてきた華僑も、畢竟おそるべき資本的魔力によつて踊らされた傀儡になり下つてしまつた。

ヤムもすれば華僑研究者が往々にして見逃してゐた點は、華僑の買辦的役割であるといふことであつた。南洋華僑のおそるべき勢力を過大に評價し、華僑運動をたゞちに民族主義と結びつけ、華僑の根強さに驚嘆したものは一切ならすあつた。支那事變の勃發に際して惹起された華僑の日貨ボーイコット運動によつて、華僑の占める役割のいかに強大なるかを今更に感じた。タイ政府自身も、「タイ人のためのタイ建設」といふナショナルリズム運動の意義に應へて華僑の入國を制限し、言論を彈壓し、各種の華僑對策に全力を注いできた。

しかし華僑は商品の販賣者であり、農産物の集荷者としての商人であり、零細なる小口金融業者であり、勞働力の提供者であり、所詮老大なる資本の力によつて庇護された分岐であり、その御用役人にすぎない役割を演ずるものであることを見逃すことはできない。

かくの如く華僑を直接間接使役して、工業製造品の販賣者として、原料資源の運搬者として介在せしめ、タイ經濟の半植民地的經營に乗出したものは、全くイギリスの老獪きはまる世界政策によるものに外ならない。

とくに十九世紀の後半まで米とよもにタイ國の重要資源をなしてゐたところの、甘蔗及び棉花栽培業は、この國における生産技術の脆弱と産業資本の缺除とによりいちどるしく衰退を示すにいたつたが、その間にイギリスの露骨な不開發政策がはたらいてゐることは多言を要しないところである。

すなはち印度、エジプト、アフリカ等の自國植民地に棉花を栽培し、キューバ、及びジャバ地方を甘蔗栽培地としマレーをゴムの栽培地とすることによつてタイ經濟を徹底的に米の單一栽培地に變ぜしめ、且つシンガポール、香港の二港によつてタイ國貿易の大半を伸擡せしめることによつて、あくなき野望の完成に努めつゝあつたものである。かやうに華僑を矢表に立てることによつて暴虐のかぎりをつくしてきたこの「見えざる手」イギリス侵略者は、いかにタイ經濟の各部門に滲透し、これを展開せしめたか。

## 一、原料供給地としてのタイ經濟

タイ國は熱帯農業特有の多種多様の資源に恵まれ、一九世紀の中葉までは米の外、甘蔗、棉花、胡椒、玉蜀黍等の農産物をさかんに輸出してゐたが、自由貿易制の實施にともなふ商品經濟の滲透により、農民の購買力はいちどるし

く向上し、とくに中部においては農村の自給自足的經營は徐々に解體過程をたどり、貨幣追求の念はかれ等の腦裡から離れることはできなくなつた。その必然的結果として従來農村において營まれてゐた家内の工業——特に織物業——は次第に優秀、廉價な外國製品に駆逐されて一路衰退し、米作を中心とする單一經濟に移行することとなつた。タイ國において古來より行はれてきた米作法を見るに、氣候、雨量、温度の自然條件が米の成育に甚だ惠まれてゐるために、粗放な技術をもつても容易に栽培することができたのみならず、農耕地は相對的に過剩であり、單位當り人口密度も中部を除いてはきはめて低く、移動耕作すらはれ得るところもある。米作に使用される農具はいまだ甚だしく簡單にして原始的なものであり、肥料も自然の風化作用によつて容易に補給され、害蟲も驅除されるためとくに積極的勞働を必要としないが、かうした自然的條件のみに依存して米作をつづけることは、國民經濟的發展的見地よりしても甚だ危険であることはいふまでもない。

米の單位當り收穫高が年々遞減し、自然上の豫期せざる被害を蒙むることも全くこれがためである。かくの如く粗放、幼稚な生産技術を固守しつづけてきた農村經濟が、外國勢力の押し寄せる波にひとたまりもなく押へつけられたことはいふまでもない。農民の購買力の増進、米生産の無計畫的な異常な昂進が、これを仲介する華僑商業勢力の滲潤によつて一層農民に對し貧窮と農家經營の縮小化を強ひ、農業の發展を阻害する素因をなすにいたつた。

最近政府が灌漑計畫を着々と實現し、肥料、農具、品種等の改良を試み、さらに協同組合等を設立して一九一九年の災害を機縁としてタイ農業の開發に乗り出すにいたつたのも全くこれがために外ならないのである。

しかるに比較的近代的技術と資本を要するゴム、チーク、錫等の諸産業においては自然條件と零細な經營のみに依存したのでは満足すべき成果をおさめることは不可能である。民族資本をほとんど有しないタイ國が、これら天與の資源に恵まれてゐるにかゝらず、これをすべて外國人の經營に移し、かれらの手によつて重要資源の一つ々々が運び出されて行くのを手を拱いて見るよりほかに致し方なかつた。

蓋しゴム、錫等の資源の開發は、近代工業と尨大なる國家資本を背景としてのみ始めて可能である。イギリスが風にタイ國の重要資源の開發に着目し、これを獨占するとともに、タイに對して不開發政策をもつてしたのは全くこれによるものである。

いま十九世紀から二十世紀にわたるタイ國輸出貿易の趨勢を概観すれば、一九一〇年頃までは米が總輸出額の八割以上を占め、タイ貿易は米輸出力増加と平行して高昇するにいたつたが、一九一〇年頃錫の近代的採掘方法が輸入され、さらにおかれて半島部においてゴム栽培業が行はれるやうになり、タイ國輸出貿易は米に次ぐ錫、ゴム、チークのいぢどるしき據頭によつて鼎立的性格を呈示するにいたつたことは次の統計によつてもあきらかであらう。

第一表 重要輸出商品の趨勢

年次	米%	チーク%	錫%	ゴム%	輸出總額(千銖)
一九一〇	七八、五	七、五	四	—	一一九、七〇〇
一一	七二、五	八	五、五	—	九三、八六七
一二	七三	七	六	—	九一、六六四
一三	七八	五	六	—	一一八、八九一
一四	七七	五	四	—	一一三、一七八
一五	七六	四、五	七、五	—	一一七、八〇〇
一六	七六	四	六	—	一三五、五八七
一七	七二	四	七	—	一三九、一九〇





むなきにいたり、近世にいたるまで華僑の獨占下にあつて跛行的發展を示してきた。  
 しかるに一九〇八年、イギリス資本によるトカー錫鑛淺深會社が設立され、全島錫山と稱せられるブツケット島を中心として大々的に乗り出してより、近代的技術と資本を擁するイギリスは漸次華僑の原始的採掘方法を驅逐してタイの錫業を掌握することゝなつた。

タイの錫業の近代的發展が全くイギリス資本の要請によつて生れたものであることは言ふまでもないことである。

第二表 採掘方法別、タイ國錫生産高の發展 (ピクル)

年次	生産方法		總 産 額
	近代的生産方法 (イギリス)	原始的生産方法 (華僑)	
一九一〇	一一,四五二	七〇,八〇四	八二,二五五
一九一四	二九,六八六	八一,〇四五	一一〇,六二四
一九一七	五一,三四三	一〇二,四三九	一五三,七八二
一九二〇	四一,二五六	六二,九二七	一〇四,一八三
一九二四	七二,七二八	一一,二八一	一八五,五三九
一九二七	五六,六一五	一一五,七七八	一八二,三九三
一九三〇	一六三,一六六	一一六,三四二	二七九,五〇八
一九三一	一六六,六六三	九八,九二九	二六五,五九二
一九三二	一四二,二六五	八四,二七九	二二六,五四四
一九三三	一四九,四九九	九八,二七四	二四七,七五三
一九三四	一四四,八八五	一〇九,九二二	二五四,八〇七
一九三五	一三五,五八一	一〇二,三八六	二三七,九六七

出所タイ國統計年鑑

本表によつて明らかである如く、淺深法による近代的生産方法は三〇年を境としていちぢるしく上昇し、華僑の原

始的生産方法——華僑の採る梳掛法、狸掘り、丘陵採鑛法等が従來支配的であつたが——は次第に淺深法におさへられ、殊に近年は彼我その位置を變へることゝなつた。

かくの如く錫業の發展はイギリス資本の注入によつて齎らされたものであるが、錫鑛資源の世界經濟において占める地位はきはめて重要なものがある。すなはちタイ國錫年産額の世界總産額対比を見れば一九〇一年の四・二%より一九三〇年には六・七%に、三三年には一一・三%、さらに三八年には九・一%とその地位は漸次重要性を増しつゝある。

かくの如くタイ國の錫業はタイ經濟上きはめて重要なものがあるにかゝはらず、實際上の支配權をイギリス資本によつて握られ、タイ國家資本の進出はいまだ家々たるの觀を免れない。これは次の統計によつて明らかであらう。

第三表 列國の錫業投資概況

國籍	會社數	資本金(タイ貨換算)
イギリス	五〇(社)	八二,〇〇〇(千銖)
タイ	六	二,八〇〇
タイ・スイス合辦	一	一,〇〇〇
デンマーク	一	二五,〇〇〇
オランダ	一	一〇,〇〇〇
フランス	一	二五〇
合計	六〇	一一二,二九〇

これは一九三八年現在登録されてある會社の系統と資本金であつて、華僑の小企業はこの中に含まれてゐない。しかし華僑の錫業における勢力は勞働者、仲買人としての優位にあるもので、資金的にはイギリス勢力の壓倒的優勢に

おかれてゐるといふも過言でなく、生産錫鑛が悉く、シンガポール、乃至はビナンにおいて製鍊されてゐることを考慮すれば、イギリスの實質的勢力はさらに倍加するであらう。

さらに錫に次いで新たらしくクローズアップされたゴム業を見よう。

ゴムの栽培は氣候によつていちじるしく制約を受けるものであるが、タイの南半島部地帯（ゴムは北緯一三度以内の領域に限られるが）は單に自然條件より見てもゴム栽培に好適してゐるといはなければならない。

しかしゴムはその性質上比較的資本の回轉がおそく、栽培にあつてかなり長期の年數と近代的技術を要するためエステートの經營様式によつてのみ大規模の栽培が可能である。ゴム業がタイ國において有望であるにかゝはらず等閑視されてゐたのは全くこれがためであつた。

近年資本主義諸國のゴム工業のいちじるしく發展した結果、南洋のゴム栽培業は急激に擴張され、タイのゴム栽培もマレー、蘭領印度に比較すればかなりの遜色があるが、華僑及びイギリス資本の参加に伴ひ前記の如くその重要性を増してきた。近年國營になるゴム製造工場が設立されたものゝ如くであるが、ゴムの生産——製造の工程においては華僑のあづかる力はもつとも大きい。

以上タイ經濟資源の占める國際的地位としてその大宗をなすところの米、錫、ゴム、チークについていさゝかその考察を試みたが、これらの四商品は國家經濟の命脈を左右する四大支柱であり、輸出貿易の九割近くを占めてゐるが米以外の資源が悉く外國人の手によつて壟斷されてゐることは、タイ民族資本の貧困がこれへの參畫を不可能ならしめてゐるとはいへ、國家的見地より考へてもゆるがせに出来ない問題であらう。

かくの如くタイ經濟が米への偏倚を是正しつゝ多角的經濟へ移行する傾向のあることが看取できるが、これはまた

一面畸形的現象を一層具體化したものに外ならないのである。

重要資源の仕向地が悉くイギリスに依存してゐることは、蓋しタイ經濟の植民地性を物語るものである。

第四表 タイ輸出貿易の對英依存性（一、〇〇〇萬）

年	イギリス	一九	二九	三七
イギリス	六、五九九	九、三二〇	七、四三二	四、一一七
デンマーク	—	一八四	三、三三七	四三〇
オランダ	一六三	三一一	一、六八七	一九八四
イタリ	一八三	六〇三	六九五	一九七
ドイ	七、六一八	三、四五七	二、五四六	二、七二四
日	二、七三二	二、〇九六	一、五、九二九	五、九〇七
支那	九六	三、八六六	二、八四五	六〇五
蘭領印度	七、〇一三	一、一八六	一〇、四七九	一、三三三
シンガポール	三八〇〇七	四八、〇四六	八二、三四二	五二、六五九
香港	二七、九九三	二二、九九二	三六、八三九	二二、一二四

以上の如く輸出の大部分はシンガポール及び香港に仕向けられ結局はイギリスの勢力によつて規制せられることを餘儀なくされてゐる。

由來シンガポールはイギリス東亞侵略の據點であり、東亞市場の中心點をなし、南洋各地の生産物の大半は一旦シンガポール、及び香港に輸出され、しかる後ここより更に各地に再輸出されるものであるが、タイの輸出貿易がシンガポール、香港、ビナン等を仲繼することによつて、輸出港としてのバーンコークの地位は甚だしくその重要性を減少し、タイ經濟の對英依存性を不可避ならしめられたものである。

米の相場がシンガポールの市場によつて決定され、錫、ゴム等の資源がバーンコークを経ずそのままシンガポールまたはビナンの工場に搬出されてそこで精錬又は加工され、さらに外國に向けて再輸出されるものであるが、製造技術を英領マレーに集結せしめて、シンガポールを東亞政策の據點たらしめんとしたことも結局は老獪きはまるイギリス世界政策のあらはれに外ならなかつたのである。

さらにイギリス勢力の支配下にあつてきはめて重要な役割を演じてゐたものは華僑であらう。華僑は國內の商業取引網を完全に掌握してその仲介利潤をほしむにしてゐる。すなはち直接農民より米を購入してこれを精米所に運搬し、精米して輸出するまでの系路は勿論、チーク業においてもイギリス会社より多數の木材を買ひ取つてこれを製材し、錫業においては華僑經營のものは資本的に技術的に、イギリスに比してはるかに見劣りがするが、華僑は労働者として、イギリス人会社に使役され、シンガポール、ビナンの精錬會社の代理店として仲買業に携るものが多く、いかにイギリス人たりといへども華僑の仲介的勢力を無視することは全く不可能である。蓋しイギリスはその侵略的政策を露骨にさし向けることを避け、ことさらに華僑の商業買辦的勢力を利用してゐたもので、支那事變當初の華僑の日貨ボーイコット運動の蔭にはかうしたイギリスの策謀のあとが見られるのである。

### 二、商品市場としてのタイ國經濟

ナショナルリズムがようやく軌道に乗るにいたり、國營精米所が設立され、その他の製造工業が續々出現して、華僑の特種工業とともに自主化の傾向を強めることとなつたが、いまだその日も浅くタイ工業は見るべきものはきはめて少なく、外國製品の消費地として遺憾なく植民地的性格をあらはしてゐる。いま一九一〇年以後の商品群別輸入概況

を見れば次の如くである。

第五表 商品群別輸入概況

年次	食糧品%	原料品%	工業製品%
一九一〇	一七、五	二二、五	六〇、〇
一九一〇	一六、七	一三、八	六六、〇
一九一〇	一八、一	一〇、六	六〇、五
一九一〇	一五、四	九、八	六二、四
一九一〇	一四、五	一三、五	六五、三
一九一〇	一五、〇	一三、五	七〇、〇
一九一〇	一三、〇	一一、五	七一、五

出所タイ國貿易統計

かくの如くタイ國輸入品の大宗をなすものは食料品及び工業製造品であつて、原料品の輸入がきはめて低いことはタイ工業の未發達の現状を物語るものである。

いま一九三八年における輸入貿易を商品別に考察すれば、

第六表 商品群別輸入額

品名	輸入額	割合%
食料品	一六、七九八(千銖)	一三、〇%
麻袋	五、三三〇	四、一
機械類	七、六五三	五、九
金屬製品	一一、八三〇	九、九
綿絲綿織物	二九、五六二	二二、〇
煙草	四、二九七	三、三
製油及鑛油	一一、二九〇	八、六



化學製品	一、七三三	一、三
電氣器具	三、〇五三	二、五
醫料藥品	二、一八八	一、七
紙及紙製品	三、五〇五	二、八
ゴム製品	一、八七三	一、四
車輛	五、三三六	四、一
その他雜貨	一八、二五六	一四
輸入總額	二九、六三一	一〇〇%

出所タイ國貿易統計

かくの如くタイ國輸出商品中主なもの、食料品、綿絲綿製品、金屬製品等の工業製品でこれらの優良低廉なる商品の國內流通によつて、從來の家内工業生産は一路衰退の道程をたどつたことは既述のとほりである。

最近これらの製造品の外、機械等の生産器具の輸入がいちゞるしく増加したのは注目に値ひすが、これは主として灌漑技術の促進、擴張のための諸機械の輸入と、錫淺深機械の大量輸入のためであつて、決して國內における工場制度の確立に伴なふ機械具の輸入増加ではないのである。自動車その他の車輛輸入の増加もその特色の一つとして考へられるものである。

タイの輸出が悉くイギリス依存を餘儀なくされてゐるに對し、輸入においては列國の角逐甚だしく、最近では日本の進出によつてイギリスを驅逐するの勢にあることは見逃すことの出来ない問題である。

第七表 輸入貿易上の國別地位趨勢

日	三〇	三三	三三	三四	三五
本	一一・三(%)	八・五(%)	一四・四(%)	一九・五(%)	三五・五(%)
					二九・三(%)
關	一・一四	一・五二	一・六〇	一・五九	一・四四
支	一九・九	二〇・五	一九・二	一三・五	二〇・五
ア	五・九	五・一	四・五	四・三	四・五
イ	三・四	三・四	三・九	三・五	三・〇
ド	五・一	四・三	三・八	三・五	三・八
オ	一・七	一・六	二・〇	一・六	二・〇

パインコークには、大資本を有する歐米日の大會社が楯比し、食料品、鑛油、機械、化學製品等はイギリスが、煙草、車輛等はアメリカが、機械及び化學製品はドイツがもつとも優勢であるに對し、綿絲綿製品、人絹々織物、日常雜貨品にいたつては日本商品の獨占下におかれ、我が國の商品市場としてのタイ國の占める地位はいよゝ重要性を増しつゝあるが、東亞共榮圈經濟の確立のためには、わが國の工業製品の一層の進出が期待されなければならない。

しかしこれらの輸入商品はパインコークの商社より華僑の大問屋に卸され、小賣商の手を経て消費者の手に賣却されるが、國內商業は完全に華僑の従事するところで、華僑の商業力を無視してはヨーロッパ商社も實際に商品の賣買を行ひ得ない現状にある。

されば華僑の排日運動によつて、我國商品の進出がいかなる打撃を受けたか、説明するまでもないであらう。

一三、七、す、び

以上タイ經濟の歴史的發展を、その特徴を辿つて概括的に考察したが、これによつて明らかなる如く、タイ經濟の基本産業である農業はきはめておくれた生産段階のまゝ停滞し、一方錫、ゴム等の諸企業は完全にイギリス資本下に

制壓されて、タイ民族資本の進出を阻害せしめられた。華僑はその間にあつて諸取引部門を完全に壟斷し、タイ經濟を立體的構造に組立てゝゐる。

すなはちピラミッドの底邊は農業をいとなむ多數のタイ農民であり、頂點はイギリスによつて占められ、その中間に華僑が介在し、タイ民族經濟を二重に脆弱化し、歪曲化せしめて來た。タイが輸出超過を毎年つゞけながら、タイ國家財政がきはめて不健全であるのは華僑の本國送金借款の利子の支拂をはじめ貿易外の支出によつて龐大な額が國外に逃避するためである。タイ國家財政がその収入を貿易収入と關稅收入、租稅收入のみに依存してゐるかぎりタイは經濟的に今後も植民地的性格をつゞけて行かなければならないであらうが、新しい民族運動が經濟自主化にその鋭鋒を向けるにいたつたのも、全く植民地性からの解放への熱烈なる叫びに外ならないのである。

今やタイ國內に於て協同組合を設立して農業の發展を試み、ゴム、棉花、甘蔗等の農産物の栽培を極力獎勵して米への偏倚を是正し、工業を興し、錫、チーク等の企業にも進出せんとする機運が急速に醸成されるにいたつたが、その成果こそ期待すべきものがある。

新たなしい東亞の秩序の回復が成つて、東亞共榮圏といふ一貫した大きい見地からタイ經濟を眺め見渡すとき、タイ經濟はいかに編成替して行かなければならないであらうか、わが國の資本と技術を要望するの聲がきはめて大であらうと想像されるが、これはいづれ機會を改めて論じなければならぬ問題である。

(昭一七、二二、二三)

二四

## 大東亞戰爭と日タイ外交

駐タイ日本大使館書記官 岩 田 冷 鐵

本篇は過般一時歸朝中の岩田書記官がA.K.の委嘱を受けて去る一月二十八日午後七時十五分より二十分間にわたり放送した講演の原稿で、本講演は大東亞戰をめぐるタイ國實情に立脚しての現實味溢る、講演であつた。(編輯者)

### 開戰以來至る所に日タイ親善風景

此度の大東亞戰爭は偉大なる規模に於ける義士の打入りと云ふことが出來ます。然るに昭和の義士の打入りの相手は眇たる東北の一大名吉良上野介ではなくして世界で最も有力な軍備と經濟力とを兼ね備へ多年地球を我もの顔に振舞ひ來つた「アングロサクソン」の共同勢力であります。従つて英米兩國をたたくのめすことは、尋常一様の事業ではありません。或人は「アングロサクソン」を打倒すべく飛車も角も桂馬も用意が出來てゐると云ひました。勇猛果敢なる「ハワイ」の開戰は飛車の戰であり、「ヒリツピン」、「マレー」の上陸作戦は角の戰爭と云ふことが出來るのであります。しかるに將棋は飛び道具だけではありません立ちません。飛び道具が如何にめざましい働きを見せても、これと呼應して、金や銀や更に歩がその本來の機能發揮するにあらざれば敵の玉將を打取る事は出來ないのであります。近代戰爭を稱して總力戰と稱します。總力戰とは何かと云へば、それは武力はもとより、經濟、外交、其他すべての部

二五

面に於ける國家の力を結集して戦ふことを意味するものであります。この意味に於て私共が擔當してゐる外交も、總力戰の重要な一部内を成すものであります。これを將棋で云ふならば金とか銀とか云ふ役割を演ずるものと云ふことが出来ませう。そしてこの金銀で敵の王將を打取る場合もあるのであります。

大東亞戰爭開戦の當日に於ける「ハワイ」開戦は誠に世界の戦史を空しくする大戦果であつて、之に對しては國民の齊しく感激措くあたわざるものがあるのであります。然れにこの赫々たる戦勝と時を同じうして泰國の首都「バンコック」に於ては夜を徹して息つまる様な外交戦が展開せられたのであります。ここにも義士の打入りが行はれたのであります。そしてこの外交交渉は多少の迂餘曲折が有り時間的には豫定通りに行きませんでした。兎も角にも皇軍の泰國通過の協定が成立し遂に攻守同盟に迄發展して皇軍の平和進駐が成つたのであります。そして我外交戦は勝利に終つたのであります。

今や泰國の田舎路には日本の兵隊さん達が自轉車や「オートバイ」で獨り歩きをしてをります。亦鐵道沿線の驛々では日本軍の通過に際し泰國の老若男女が慰問品を車窓に投げ込んでをります。先日一日本軍の飛行機が泰國の山村に不時著しました所、村中こぞつて非常なもてなしをしてくれました。これに對して軍からお禮を持つて行きました。どうしても受け取りません。如斯く泰國内には到る處に日泰親善風景が描き出されてをるのであります。そして日本軍の後方を擾亂される様な恐れなどは棄にしたくありません。しかもこの泰國民の對日協力は決してうはべから出たものではなくして心から進んでやつて居るのであります。萬一この交渉が決裂に終つた場合の事を想像して見ますと、馬來「ビルマ」の南西作戦は餘程違つた形で行はねばならなかつたらうと思ひます。問題は戦線が佛印國境に始まるか、「マレー」國境に始まるかと云ふ事にあつたのではありますまいか。そして泰國戦線を突破するには、

やはり相當の犠牲と時日とを要したことは想像にかたくありません。亦武力進駐の當然の結果として泰國内の鐵道警備も日本軍自ら當らなければならなかつたらうし、治安維持にも相當の兵力を割くことを餘儀なくされたのであります。支那の戦争の經驗を持つ日本の兵隊さん達は現在の泰國官民の協力振りを見て餘りに勝手が違ひ過ぎるので寧ろ氣味悪るがつて居る程であります。

### 難局に下したヒン首相の英斷

私は十月末に盤谷に着任したのでありますが、當時に於ける日泰英三國の外交關係は極めて微妙なるものがありました。そして日泰關係は必ずしも良好とは云へなかつたのであります。

當時の西南亞細亞の狀勢は丁度希臘作戦以前の巴爾幹に彷彿たるものがありました。時間的には多少「テムボ」はのろかつたのでありますが、河内の進駐は私は羅馬尼亞の進駐ではなかつたかと思ふ。そして西貢進駐は恰も勃牙利の進駐であります。ところが獨逸は勃牙利迄は平和進駐で行つたが希臘となると簡單には行かなかつた。希臘の背後には英國の勢力が嚴然とひかへて居る。泰國の背後を睨んでゐる馬來「ビルマ」、新嘉坡は地中海の「クリート」「サイプレス」「スエズ」に比すべきものであります。泰は正に西南亞細亞に於ける希臘でありました。私は泰に於ては所詮日英一戦を免れぬものと覺悟を決めて居つたのであります。

他方泰國の對日空氣は必ずしもよくはありませんでした。政府の中立政策維持に對する掛聲は藥が利き過ぎた感があつた。のみならず英國は之に便乘して中立政策を積極的に支持しました。今にも日本が泰の中立を侵犯するが如き宣傳を行ひ、亦而も夫れが或程度奏效したため一時は泰國民は日本を以て敵視するものさへある有様でありました。

外交史の前例を顧みると外交交渉と云ふものは時間をかけることが必要であります。そして最も短い場合に於ても四十八時間とか二十四時間と云ふ時間が許されることを例とします。今回の外交は決して最後通牒と云ふ様な不穏なものではなく飽迄も平和交渉であつたことは勿論ですが此の外交の爲に與へられた時間と云ふものは驚く程短いものであります。換言すれば乾坤一擲の交渉であつたのです。此談判に臨まんとする坪上大使の氣持は丁度扇の的に向つた那須の與市の心境に相似たるものがありました。只神に祈るより外はなかつたのであります。

「ビボン」首相は十二月七日即ち今回の重大外交の當夜或る事情のもとに「バンコック」から三百軒離れた地方に旅行し不在であつたのであります。交渉せんとするも責任をとり得る相手が居らなかつたのであります。この爲に交渉は非常なる齟齬を來しました。そして結局一時は「ビボン」は責任を迴避して逃げたのではないかと、とさへ想像せられたのであります。私共は最悪の事態を覺悟せざるを得なかつたのです。「ビボン」首相はこの想像を裏切つて夜を徹して自動車を驅つて「バンコック」に歸つて來たのであります。そして旅塵を洗ふ暇もなく旅行服のまま坪上大使と會見し斷々乎として重大外交を處理したのであります。國家の重大難局に直面して之を恐れず自ら困難に體當りする、私は大政治家の器量を見せられたのであります。其壯烈に打たれたのであります。

### 盤谷市民は轟然一夜にして笑顏に

通過協定から一日置いて十日夜「ビボン」首相は遂に攻守同盟條約を決定した。其夜自ら街頭に立つて親しく國民に呼びかけました。從來首相が自ら「マイク」の前に立つと云ふことは殆ど前例のなかつたことです。たまたに放送することありとするもお坐なりなことに過ぎなかつた。しかるに「ビボン」首相は當夜原稿を持たずに約一時間半に亘

つて大放送を行ひました。そして冒頭「今日は國民諸君に對し自分の本當の氣持を知らせる爲に「マイク」に立つたのである。自分は眞に泰國を愛して居る。自分は何時迄も首相をやる積りである、この國家の重大時局に際して自分丈逃げかくれるなどといふことは毛頭考へて居ない。自分は最後迄國家の爲に盡す覺悟である」と説いたのであります。更に愈々同盟條約諒解成立の翌日たる十二日夜首相は再び熱誠溢るる放送を行ひました。そして「此度の同盟條約締結に就ては或は國民の一部に於ては納得の行かぬものがあるかも知れない。しかし自分は國家の責任者として輿論に盲従するわけにはゆかない。國家の爲最善なりと信ずる政策は假令國民の反對があつても斷じて之を行はねばならぬのである」と告げたのであります。首相は更に續けて、

「國民の内には或は英國を有難く思ふて居るものも有るかもしれぬけれども一體英國は過去に於て泰に何を與へたか泰から領土を奪ひこそすれ泰に失地を返してくれた事はないのである。泰の失地回復に眞に協力した國は日本を措いて他にないのである。既に國策は決定したのである。國民はよろしく自分を信頼して之に従つてもらひたい」又「既にして日英間に戦端が開かれた以上何處からも何も這入らなくなるのは當然の結果である。さうなると泰に物資は入らなくなる。國民が經濟的困難に逢着することは明かである。國民は今から覺悟すべし」と豫め覺悟を促がしたのである。彼は諄々として國民に説き聞かせたのであります。是は「ビボン」首相の一つの特色であります。人が對する場合何時でも物靜かな態度で語り決して聲を勵ますといふやうなことはありません。そして演説をする場合と座談をする場合と少しも調子を變へません。何時でも座談の調子であります。そして一見おどおどしたやうなところがあり之が却つて其魅力を増す原因となつてをります。此點は派手な「ヒットラー」總統や「ムツソリーニ」首相とは大分調子が違つて居ります。



「ビボン」首相は是より先樂の利き過ぎた感があつた中立政策に對する國民の思想と親英傾向を親日に切り換ふべく苦心をして居つたのであります。しかるに事態の變化が餘りに急激だつた爲に首相の工作は間に合はなかつた。自然通過協定成立後に於ても國民の氣持は完全によつて急角度の轉換を見たのであります。國民は首相の熱誠に動かされたのであります。そして安心しました。昨日迄日本軍に對して白眼的態度をとつて居つた盤谷市民の空氣は一夜にして笑顔に變りました。而も之は外から強ひられたと云ふ氣持では更になくして欣然たる態度でありました。去就に迷つて居る國民の心を一夜にして定めてしまつた其手際と云ふものは實に鮮かなものであります。これは二千萬の泰國民が「ビボン」首相に絶對の信頼を置いて居るにあらざれば出來ないことであります。

### 乃木大將と相通するビボン首相の心境

斯くして「ビボン」首相は非常の難局に處して曇らざる判斷力と毅然たる決意を以て大東亞の歴史を飾る日泰攻守同盟條約を成立せしめました。これに依つて泰國民をしてその向ふところを誤まらしめざりしと共に泰國を第二の「ギリシヤ」たることをまぬかれしめたのであります。然るに「ビボン」首相がこの大英斷を敢へてした心境について付度するならば日本海軍の「ハワイ」並びに「マレー」沖に於ける赫々たる勝利が「ビボン」首相の決意をうながした一つの原因であつたらうことは否定出來ない所でありますが、私はこの日本の戦果は寧ろ第二義的のものであつたと信すべき理由があるのであります。

即ち坪上大使は十一月二十日に「ビボン」首相と會見したのでありますが、その際首相は「もしも日本が英米と戦

ふ場合は我々東洋民族は結束して自分の年來の主張を貫徹したい」と言明してをります。しかも彼のこの信念は決してこの時に始まつたものではなくそれ以前に於ても屢々我大使館の先輩達に漏してをつた所であつて開戦數日以前に再び大使が會見した時「自分はかねて日本大使館の人々と口約束をしてをるのであるが、その氣持は今日に於ても不變である」と云ふてをります。亦同盟成立の翌日、日本新聞記者團と會見に際し記者團より同盟締結の心境について質問したの對し『亞細亞人の亞細亞の爲に』と端的に言ひ切つて居ります。以上幾つかの事實は彼が常に東亞民族と云ふ大きい立場から國事を考へ外交を處理したと云ふ大きい立場から國事を考へ外交を處理したと云ふことがうかがはれるのであります。要するにこの同盟條約は「ビボン」首相のかねてよりの信念を具現したまでであつて、日本の勝利が「ビボン」首相の決意を促した第一の原因なりと考へるものありとするならば、之は恥づべき考へ方ではないかと思ひます。

「ビボン」首相は三人の子供を英米に留學させてをります。英米は之を以て人質と考へてをるのであります。まかり間違へば三人の子供を犠牲にしなければなりません、にも拘らずこの同盟條約を斷行した裏には容易ならぬ覺悟が存するのであります。その心境は往年の乃木大將の心境と相通するものがあるのではないか。「ビボン」は獨裁政治家であります。獨裁政治家は反面に眞の責任政治家と云ふことも出來ます。彼は常に國家の休戚を双肩に荷なつてをるのであります。失敗すれば辭めれば濟むと云ふ様な考へは彼には許されぬ政治道徳であります。凡そ天下の事は一朝にして成就するものではありません。この「ビボン」首相をして最後の決意をなさしめるに至つた事については、やはり過去に於ける十年間の日泰外交を無視するわけには行きませんが、同時に外交は國家と國家との關係でありませんが結局人間のやることである、所詮人情を離れて外交は有り得ないのであります。人間と人間との氣持とか或は感

激と云ふものが結局外交を左右することになるのであります。

三二

### 十年前矢田部公使による同盟の發端

丁度今から十年以前の出来事であります。昭和七年六月二十四日現泰國首相「ビブン」の先輩「ピヤバホン」を首領とした泰國青年革命黨は英國の支持する王黨政府を覆して革命政府を樹立しました。その翌年反動政變が起つて憲法は停止せられ、革命派の中心勢力が驅逐せられたのであります。然るに其後三ヶ月を出ずして「ビブン」は「ピヤバホン」を擁立して反動政府を倒して「バホン」を總理とする革命派新政府を樹てた。この第三次の政變によつて革命は成就したのであるが、革命政府としては諸外國が如何なる態度を執るか、最も重大な關心事であつて、英佛等の西歐諸國が王黨政權の崩壊、革命新政權の確立を喜ばない事は判り切つてゐた事で、革命政府としてはこの點に於て多大の不安と寂寞を禁じ得なかつたのであります。そこで「ピヤバホン」は革命成立の當夜當時の矢田部公使を招致し支持を求めたのであります。矢田部公使は即時に獨斷を以て『日本はあくまでも革命政府を支持するつもりだからしつかりやれ』と激勵して東亞の天地から英米の搾取的勢力を一掃して東亞のための東亞を建設する事を要望する點に於て、日タイ兩國の利害は完全に一致する所以を説いた。當時軍部の實權を握り政變遂行の中心勢力であつた「ビブン」少佐もその席に居て、三人肝膽を披瀝して祖國興隆のために互に相助けんことを誓つたのであります。この矢田部公使の激勵は彼等をひどく力付けたのであります。革命政權は今日に於ても當時の矢田部公使の激勵を記憶して居るのであります。同時に英國の革命妨害行爲は彼等の胸に深くこたへてをるのであります。その後「ピヤバホン」も「ビブン」首相も屢々當時の状況を述懐して居ります。今回も同盟成立の種が十年以前に矢田部公使に依つて播かれ

たと云ふことが出来るのであります。矢田部公使の外交は單なる事務官外交にあらずして、立派に君命を完ふしたのであります。爾來今日に到るまで十年間或ひは泰國海軍の育成に協力し、或は國境紛争協定に乗り出す等我々の先輩は日泰關係を今日あらしむる爲に幾多の礎石を投じて來ました。

泰國は人口僅かに千五百萬、領土も我國と大差なく決して大國と云ふことは出來ないのであります。又資源に就て見るも、米、ゴム、錫等重要資源を有してをるけれども「マレイ」其の他の地域に比較して見れば大したものではないのであります。それにもかかはらず、吾々は泰國に對して何故か特別の親しみを感ずるのであります。凡そ國際間に於ける國交の歴史を顧みると一遍や二遍必ず不愉快な記憶が有るのであります。日本とその接壤諸國家との間にも幾つかの紛争や戰爭の歴史があります。然るに獨り日本と泰國との外交史には未だ曾つて一點の汚點も存在しないのであります。山田長政の遠き昔は暫く措くとして滿洲事變を繞る國際聯盟に於ける泰國の好意的棄權、矢田部公使の革命政權に對する激勵、泰佛印の國境紛争に對する日本の打算を超越した調停其の他算へ來たれば、一つとして日泰親善の礎石とならぬ事件はなく遂に今日の攻守同盟にまで發展したのであつて、兩國の關係は不思議な程無傷であるのであります。日本は過去に於て東亞解放の爲に幾度か正義の戦を戦つて來ました。然るに今日まで不幸にして東洋民族にして眞に己むに己まされざる日本の義憤を理解して心から之に協力したものは、稀であります。そして時には日本は同じ東洋民族を敵として戦はねばならぬことさへあつたのであります。之は確かに寂しいことでなければなりません。同時に東亞に一つ位眞に心を許し合ふ友邦が欲しいと云ふ氣持は吾々の心の中に感じてをつた所でありませぬ。共榮圈内の國々は何れも日本の友邦には違ひありません。しかし乍ら之を完全無缺ともいふべき日泰關係に比較して見ると其の歴史は必ずしも同一と云ふことは出來ません。泰國の役人達は日本との間に同盟條約を結んだことに就い

三三

て非常なる誇りと満足を感じてをります。軍事は固より宣傳の問題、經濟の問題等すべての點に於て日本に對し求められずして自發的に協力を行つてをります。そして彼等は私共に對して屢々自らの協力振りを佛印の對日協力振りと比較して、其の調子が著しく異つてをることを自慢するのであります。亦泰國の新聞記者は日本の戰勝「ニュース」を聞く度に我事の様に喜んでをるのであります。そして何時でも卒直に日本を見貴の國と呼んでをります。私は不幸にして兄弟を持つた経験がありません。そしてよその兄弟を見て自分も一人位自分を頼つてくれる弟、我儘を云ふてくれる弟があつたらと云ふことを感ずることがあります。然るに今や日本は泰國と云ふ弟を持つたのであります。日本としては泰國を愛すべき弟の國としてねんごろにもり立ててやることを忘れてはならないのであります。

最後に日泰攻守同盟條約が大東亞戰爭の作戰遂行に寄與する使命を持つてをることは勿論であります。然るにこれを以て單なる軍事的目的に局限することはあやまりであつてその外により大きな意義をもつてをるのではありますまいか。それはなにかと云へば將來の大東亞建設に對し指針を打立てたことでありませう。即ち東亞共榮圈内には幾多の民族が包擁せられてをります。この諸民族をして、各々その所を得しめ、その繁榮を期することは容易ならぬ事業であります。そしてこれを達成するには民族相互の間にゆがめられざる精神的理解を持つことが絶對的必要であります。然るに開戦の首途に於てたまたま日泰同盟條約が出来たと云ふことは爾餘の東洋民族に對し手本を作つたといふことが出来るのであります。今後の大東亞に國を樹つるものが如何な心構へであるべきか其の向ふ所を指し示したのであります。同盟條約の眞の意義は寧ろここにあるのではありますまいか。若しも將來此の條約の精神にひびが入る様なことがありとするならば、大東亞の建設の將來もおぼつかないのではないかと、日本が今後此の條約を實行するに當つては此の點を深く念頭において掛かることを忘れてはならないのであります。

## 日本觀光記



岡崎忠雄氏招致の第四回學生觀光團一行

フロンテ・ウイタヤ

大山 周 三譯

先づ少々私見を述べさせて戴き度い。抑も私が日本語を學ぶに至つた動機は常にあこがれの日本渡航を試みその上實地國情を研究し度い希望にあつたのです。以來私は、美しき日本並に親しき日本人の日常生活習慣等に關し平常から尠なからざる興味を感じてゐた一人であります。而して之れを實地に研究し、自ら此の點に知識を求めんとする希望は、必ず叶ふ時が来るものと信じてゐたのであります。

今回幸ひにアジアの盟主日本の偉大な姿を眼の當りに接する機會を與へられた事の欣快、その光榮はいかばかり私をして歡喜躍動を覚えしめた事であつたでしょう。且つ此の事は私の一生を通じて忘れ難い事の出來ない深い感銘を與へたものであります。當時私の知る日本知識は、

映畫や刊行物に於て或は先輩諸氏の日本土産話によつて辛うじて知り得た貧弱な知識に頼る外はなかつたのでした。又聞くだに日本婦人の家庭婦人として世界に範たる行狀、その優雅なる振舞、その中にも家政を整える技に長じ、且つ外にあつては職業婦人として男子に劣らぬ健氣な活動振りと言ふことを發揮されることなどは我々の最も知り度い一つであつたのです。もう一つは年々歳々、我々タイ國學生の爲に尠なからざる費を投じて日本見學の便を與へて下さる岡崎忠雄様の仁慈風徳並にその崇高な御人格に接し度いと謂ふ事にあつたのです。幸ひ今回招請に合格した我々十名は、第四回目の撰拔生徒としてその光榮に浴した譯であります。

x

盤谷を出発したのは佛曆二四八四年（註、昭和十六年）四月廿九日でした。此度、大阪商船ペンコック丸に便乗し得た我々一行は遙々故國を去つて途中航海に數日を費したのであります。若し此の航海にして海上風波なかりせば、さぞ愉快な旅が一同と共に續けられたであらうに生憎、風は荒み波高く船底の動搖は頻りに我々を惱ましたのであります。

五月十九日神戸に着くまでの前後二十一日間は殆んどベッドに横はる身となつた事を遺憾に思はざるを得なかつた。神戸の埠頭に船が横付けになると一行の案内役として金澤氏が岡崎様の代理として出迎えられた。意外にも同氏がタイ語を話すことが出来て安堵しました。と云ふのは私の知る範圍の日本語知識では甚だ頼りなさを感じて兼ね／＼氣遣つてゐたからです。同氏は神戸着の日より出發に至る迄の旅行案内役として終始寢食を共にされたのです。先づ神戸商工會所に案内され、會議所に於て茶菓の饗應を受けた事は長き旅の疲れと無聊を癒すに充分でした。この日は一同満足して同所を辭し我々の宿舎に當てられた神戸館と云ふホテルに投宿した。

五月二十日早朝より案内者と通譯とに伴はれ、同地に

於ける名所佛閣等に參詣し、マヤ山に遊んで後、岡崎邸を訪れた。同氏は喜色を滿面に浮べて一行を迎えられた。我々も招ぜらるゝが儘茶菓の御馳走になり、各舌鼓を打つて之れ迄の恩義を感謝し、歡談すること暫し、主人は自ら立つて園内を案内さる。整つた庭園、花木敷石の配置、その善美を盡した庭は、私の未だ之れあるを見たことの無い程に印象の鮮やかなものであつた。こゝに時を費すこと二時間餘りであつた。其の間岡崎様の心盡しの歡待には終始感激の外なく、我々一行は物心共に同氏の厚情に頭が下がつたのであります。

翌二十一日神戸を出發して大阪に向ひ、僅か三十分足らずして商業都市の玄關口停車場に到着した。午前十時三十分ホテルで朝食を済ました。それより往復共バスを利用して市中見物に出掛けたが、我々一行にとつては何も彼も珍らしく、初めて見るもの等が多かつた、先づ暴風雨の罹災者を祭れる禮拜堂に參拜した後、劇場で觀劇、續いて主要な官公衙等に敬意を表して歸路に著く。この日一通り市中の概念をつかみ、都市訪問の役目を果したのであつた。

翌二十二日は大阪造幣工廠、紡績工場其他重要製造工

場の見學によつて大いに得るところがあり、その規模の大と組織の行届いてゐるのに驚嘆した。而して現代日本の工業が斯く發達し、諸施設の完備と謂ひ精巧なる技術と謂ひ實に想像以上の事實が多かつた。殊に我々の興味を惹いたのは、原料がタイ國から輸入され而もそれが再びタイ國に輸出さるゝ龍腦の製造所を訪れた時である。工場主の案内により工場内やら製菓の工程を見學して廻つたが、それらの工程を経て原料より製品に至る迄で少しも無駄がなく、廢物はそれ／＼新たな副産物となつて市場に賣出される。例へば最後のものより靴墨が製せらるると云ふ具合である。工場の主人が親切に説明してくれたので、非常に有益な見學が出来た。この主人からは某料理店でスキ焼を饗應された。

六月二十三日には先づ朝日新聞社を訪れた後、一同それより鐵路京都に向ひ三十分足らずして京都驛に到着した。タイ國學生や其他多數の人に迎えられたが生憎雨に見舞はれたのでその日は終日陰鬱ならざるを得なかつた宿舎は極く停車場に近い鐵道ホテルに定められたので、夕景の商店街を巡つてホテルに戻つた。翌二十四日我々一行は借切バスで桃山御陵を參拜し、都ホテルに晝食をとり午後乃木神社に詣でた。それより日本武道並に活動

寫眞を觀覽し、歸路に望んで名所嵐山を訪れた。その絶景は人工を以てしては及ばざる自然の雅致を存し、澄みわたつた河の流に黄紅に彩られた萬木の影を映じ、大小の舟を浮べて樂む人々の有様は實に羨望に値するものがあつた。

名残りが惜しまれて暫しそこを去り得なかつた。恐らくタイ國で此の氣分を味ふことは出来ないだらうと思はれたからである。

五月二十五日京都を出發して名古屋に向つた。そこにも我々を待ち迎えるタイ學生の姿が我々を喜ばせた。京都を離れて約三時間にして名古屋の地を踏んだ。こゝも近代日本の交通機關の發達を偲ばせるに充分だつた。

我々一行が名古屋驛に着くと日タイ協會長外タイ國學生も混つて、多數の出迎へをうけた。早速タイ國佛像を本尊とする日蓮寺に參詣し、その後同地の有力者であり百萬長者の聞えある某家を訪れた。同家では今回我々學生の爲に一泊の安息を與へんとの厚意によつてその宏壯なる邸宅の一部を供せられた。同地のタイ國名譽領事は我々一行其他二十四名を招き晩餐會を催された。一同は大いにその厚志を多とし満足の意を表した。



五月二十六日、名古屋は有名な陶器製造の盛んなところで、先づ陶器製造の實地見學に一同は勇んで宿舍を出た。工場見學中最も興味を惹いたのは作業員が殆んど婦女子供達であり、その作業の迅速なると各々分業的に製品を整理してゆく様は感心に堪えなかつた。同場を辭して豊田紡績會社を訪れたが、こゝに於ても啓發されるところが多かつた。後、同市々廳で晝食の招待を受け、案内者に伴はれて名古屋動物園等に暫しの時を費した。

五月二十七日、此の日海軍戦捷の記念日と云ふので、早朝より市中に國歌合唱の聲が聞え、國旗が戸毎に掲揚されてゐた。此の記念すべき日を前にして、午前十一時名古屋を出發し一路東京に向つた。

私は曾ての希望であつた富士の姿を此の間に車窓より眺めたいと期待してゐたのだが、生憎曇天で白雲に覆はれ、その姿を見得なかつたが恨めしかつた。かくて東京着十七時三十分。

東京驛に着いた時は、既に多くの日本人並にタイ留學生が出迎えられた事は、殊の外嬉しく、感激に堪えなかつた。早速伴はれて神宮外苑の日本青年館に投宿した。五月二十八日、此の日早朝タイ國公使館を訪れ、公使

雅叙園で催された。同所は料理屋としての規模の大、庭園の美は東京一と稱せられる程であるとの事であつた。

五月三十日、此の日は昭和商會社の招待で龜清と云ふ柳橋の日本料理屋に一行は案内された。それは特別に純日本式のもので珍らしく先づ座敷に居列ぶと料理は婦人達によつて運ばれた。その場面は全く繪そのものに見えた。御馳走で殊に我々の美望措く能はざりしは、何れも美人揃ひであり座を退出するの惜しさを感じた譯である。同所を辭して同市ラジオ放送局を見學した。

當日は定まつた豫定もなく、自由に見物の時間が與へられたので、思ひ／＼に友と共に市街見物に出掛け、夕刻には在日本タイ國公使館附海軍武官に招かれて晚餐を共にし歡談盡きざるものがあつた。

翌二日は在日本タイ國公使ビヤ、シー、セーナー閣下に別れを告げ、東京を出發したのは二十一時で、一夜を車中に過し、翌日神戸に戻つた。

神戸では再び宿舍に當てられた神戸館に戻り同市の絹糸布試験所並に紡績工場に見學も忙しく、晩にはスキ燒の御馳走を受けた。

に敬意を表し、來朝の挨拶を述べ、後日本橋白木屋百貨店を見學、同所で晝食を濟まし國會議事堂に赴いた。案内者はよく議事堂内部構造や日本の議員制度に關して親切に詳しい説明をしてくれた。後日本タイ協會のレセプションに招かれて、東京在住タイ學生一同と共に歡談し海外にある同胞の親しみを異郷に於て初めて味ふた感はず別である。終つて東寶劇場で觀劇したが非常に面白かつた。

五月二十九日、早朝目が覺めると、未だ五時と云ふに既に朝日が高く昇つてゐるのを知つて一驚した。東京に住む友より、日本は日の出の國だからそれ丈けに朝日の昇るのはタイ國より三時間早いと説明され始めて納得した。その日は横濱見學の日に當てられてゐたので、早速用意を整へて案内者に從つた。案内者は我々を伴つて横濱キリンビール醸造所並に蓄音器工場等を見學し大いに新知識を得た。一同歸京したは晝近くであつた。晝飯は在東京タイ國公使ビヤ、シー、セーナー閣下より招待を受けてゐたので、これに參すべく一同と共に公使閣下自宅を訪問した久振りのタイ料理の御馳走は我々にとつて大好物である。夕刻は青年文化協會主催の晚餐會が芝浦

六月四日、この日は六甲山に遊び、頂上迄はケーブル車に乗じ、それよりは山上バスが往復してゐるので、登山は容易であつた。山上より望む谷間の景色又佳絶、我々はこゝに大いに見聞をひろくした。その日、別れに臨んで岡崎様は我々一同と晚餐を共にし、再びその温顔に接して名残り深く覺えた。長々と滞在中の御厚意を謝し辭す。

六月五日、愈々神戸港を後にして臺灣に向つた。これも曾て臺灣見學は是非試み度いと思つてゐた矢先であり今日こゝに宿願を達して臺灣行蓬來丸の船客となり、八日基隆港に到着した。之より臺北、臺中、臺南、嘉義等各々地方の特異性とも云ふべき施設並に工場等の見學を終えて、臺北に戻つたのが同月十一日であつた。翌十二日は總督府並に南方協會博物館等を訪れ、南方協會の晚餐に臨んだ。翌十三日は又臺北官立女學校、熱帯病研究所、臺北病院等を訪れ、夕刻には我々一行と臺北學生等との間に、知識の交換と云ふ意味の會が催された。翌十五、十六日はこれと云ふ豫定もなかつたので、南方協會主人に別れの挨拶を濟ませて温泉を試みた。その温泉は多量の硫黄を含有してゐるとの事で、それは日本で健

康上に大變樂になると傳へられてゐるものである。同十七日は紀記日に當り各戸國旗が掲揚された日で、共に我々一行の歸國の日であつた。臺北より僅か五十分足らずで基隆に着いた。大阪商船西貢丸に乗船したのは六月二十九日、今回旅行に費された日数は前後滿二ヶ月である。

我々は歸國に望んで非常なる満足を感じたと云ふ事は日本觀光に於て豫期したより以上思ひもよらぬ多くの知識を興へられ、曾て見た事の無い、聞いた事のない色々な事實を體驗した事で、これらは一同として無上の光榮であり、喜びであつた。但し慾を云へば餘りにも期日の短かゝりしを憾むのみである。

我々一同は、日本滞在申到着日より出發日に至る迄、否盤谷に歸着する迄、日本人が各所に於て心からなる歡待と案内により我々を導き下された御親切は忘れられぬものがあり、深くその恩誼を感じる者であります。従つてこれに報ゆるに一つの負債が私に課せられたことを感じ、將來我々の力の及ぶ範圍に於て何事かのお役に立ちお盡し致し度いと思ふ次第であります。

又我々が以前想像し得なかつた事は、日本人とタイ人

四〇

との相貌に他國人に見る事の出来ない類似點が多いこと又起居動作にして共通せるところが多いことを、しみじみと感じた譯であります。そこで一般の男子に就ては外國人と云ふ隔てをさえ覚えなかつた程で言葉の不自自の中に却つて親みと信頼が持てた。我々から見て特に違つた點とも思へた事は、日本人には餘りに眼鏡を掛けてゐる人や又杖や編幅傘を持つ人が目立つて多く見える事です。もう一つは口髯を生じてゐる人はタイ國では滅多に見られない事等の比較です。

婦人に就ては美しいと云ふのみに盡き、深く之れを知る機會を得なかつたのであります。特に、バスの女車掌が辛捧強く立働く健氣さには大いに感心させられたのでした。

我々には日本人には他國人に見る事の出来ない一般に徳義的觀念が發達してゐる事、例へば車の乗降時に於ける場合とか或は又買物時に於ける群衆が秩序と道義を心得てゐる事で、我々の忘れる事の出来ない美事であることを教へられたのであります。

私は日本滞在中に於ける良いと思つた點は何かと問はれるのに對し實は返答に苦むのです。それは滞在期間の

餘りに短時日に過ぎなかつた憾みによると云ふ外はない

又それは見當違ひな批評となるであらうからである。但し私は首都大東京が一番好きで、四通八達の交通機關建築物の宏壯、道路の整備整頓、通行人の美しさ、殊に政府機關の所在する堂々たる帝都として尠なからず好印象を興へるものがあつた。大阪は商工業の股盛を極めた重要都會であり、名古屋は又大阪に劣らぬ商工業都で、動物園を有する京都は平和な舊都市であり、他都市の如く往來の車馬が雜沓せず四圍環境何れも自然美に富み、他に比して遙かに安住の地たる觀を深くした。神戸に就ては六甲山に遊び寶塚劇場觀覽は今に忘れ難く感銘深きものがある。

唯私の終始遺憾とするところは最も憶れてゐた櫻花と

靈峰富士山を見る事の出来なかつた事です。

臺灣の印象は殆んど日本内地と變る事なく民は富み市は榮へてゐる。但し自然の風物は寧ろタイにより多く類似してゐる點が認められた。船が基隆に入港した時の眺望は、山を背景にした港の近代文化都市として高層の建築が立ち列び繪を見るやうな美觀であつた。

終りに望んで以上二箇月間に亘る日本遊歴に尠からざる新知識を興へ下すつた岡崎忠雄様に感謝しその御懇篤なる御指導によつて啓發せられた點多きを喜ぶと共に御恩を深く徳とし、併せて此際、御厚意を寄せられた諸賢に對し重ねて感謝の意を表する次第であります。同時に私共としまして日本語を一層勉強して將來日タイ親善の爲に御役に立たん事を欲して止まぬものであります。

タイ定期國際放送

昭和十七年三月、東京中央放送局タイ國向定期國際放送のスケジュール次の如し。	再生時刻
日曜 送受 時 間	後 時
七 日 土 受 前八・三〇—九・〇〇	後 時
十四 日 土 送 後一・〇〇—一・三〇	海外放送第五送信
二十一 日 土 受 前八・三〇—九・〇〇	後 時
二十八 日 土 送 後一・〇〇—一・三〇	海外放送第五送信
講演音樂ニュース	
講演音樂ニュース	
講演音樂ニュース	
講演音樂ニュース	

## 大東亞少國民座談會と タイ國の二少年

東日版少國民新聞では、南方諸國から渡日して來てゐる少年や、それらの各地から引揚げて來た日本少年等八名を以て、シンガポール陥落記念「大東亞少國民座談會」を開催し、その内容を二月二十日以降の紙上に發表した。タイ國少年の出席者はソングット・キタサンガ、タオ・チャツクス・ラクシャの兩君であつたが、席上兩君の話した事はタイ國の民情と少年の心理を知る上に一參考ともなるので、左に抄録する。

### 出席者の御紹介

**ソングット・キタサンガ君** タイ國のお友達で、高田第五校の六年生です。叔父さんは有名なタイ國のプリン首相です。  
**タオ・チャツクス・ラクシャ君** キタサンガ君と同じくタイ國のお友達、タイ國學生會館の學監高久先生をお父さん代りに慕つてゐます。城西學園中學の一年生。

記者 まづ皆さんがどんな遊びをしてゐたか伺ひませう。(一人發言)

**ラクシャ君** タイ國では水泳やボート漕ぎをします。それから日本の悪漢ごっこに似た遊びもします。

**キタサンガ君** タイではジャンケンの代りに、人數分の、長さのちがつた棒を集め、めいめい引きます。一番短い棒をひいたものが鬼になるんです。

記者 では、スポーツはどうですか。  
**ラクシャ君** 蹴球が盛んです。それからモアイといつて拳闘もやります。ハト・ミントンといつて、羽根つきの様な、網をかこんで球を飛ばす遊戯もあります。(この間數人發言)またタイにはタクローといつて、小さな籠を足で蹴る面白いものもあります。僕はバスケットが好きですけれど、ローリースケール

### 四二

ともやりますよ。  
**キタサンガ君** タイ國の剣道は日本とちがつて二刀流です。それにお面も何もつけないでやるんですから、たたかれると相當痛いんですよ。笑聲)その代り一遍たゝかれると、負けたことになつてやめます。本試合の時などは、のびてしまふ人がありますよ。またガビガボンといつて、片方は長い槍を持ち他の一人は腕に、木の桶みたいなものをつけて戦ふものがタイにあります。勇ましいです。

記者 玩具について話して下さい。(數人發言)

**ラクシャ君** バンコクの大廣場で、東と西に分れてやる大風合戦は、なかく勇しいものです。星形と菱形の二種あります。

**キタサンガ君** タイの風あげは、お正月と限りません。風の吹く季節には、みんながあげます。

記者 次は御馳走のお話。うんとお話して、日本のお友だちを羨ましがらせて

下さい。

**ラクシャ君** タイにはいろんな種類の、カレーがあります。豚や牛肉にコ、ナツの汁を入れたのはおいしいですね。でも、カレーだけ食べると、あまり辛

いので、鹿肉の鹽漬と一緒に食べます。  
**キタサンガ君** ナンベグといつて、いろんな野菜にたうがらしや乾したたろびを入れて、漬けたものもあります。果物ではドリヤンが好きです。ドリヤンに似たカヌンもおいしいと思ひます。ヤシもおいしく食べられますよ。アイスクリームのやうですよ。

記者 タイの音楽は、どんなのでせう。  
**ラクシャ君** 木琴に似たピンパーといふ樂器を使ふ昔の音楽もあります。是に合せてお面をかぶつた人が踊ります。  
記者 子供の讀みものは。  
**ラクシャ君** タイには日本の繪本のやうな、子供の讀物が澤山あります。

記者 どんな本が好きですか。  
**キタサンガ君** 日本へ來てからは、教科書と少國民新聞だけ讀んでゐます。

**ラクシャ君** 僕は冒險談が大好きです。

記者 映畫はどうでした。(數人發言)

**ラクシャ君** タイ國では、この頃日本ニュースも見られるやうになりました。

**キタサンガ君** 「土と兵隊」なんか、とてもよかつた。

記者 皆さん日本に來られたり、日本に歸つて來て、どんなに思ひましたか。

**ラクシャ君** 日本の生活は、とても愉快でたまりません。お友達も澤山出來ました。

**キタサンガ君** お友達が大量出來たのでさびしくありません。

記者 大東亞戰爭についてどう考へますか。

**ラクシャ君** 日本と手をにぎつて、しっかりと行かうと思ひます。僕は日本でしっかりと勉強して、外交官になり日本へ大使になつて來たいと願つてゐます。

**キタサンガ君** 僕は軍人になり、日本と力を合せて立派な共榮國を築きあげて行きたいと思ひます。(完)

### 東南アジア國輪送船船體系

▲昭和十二年末	總噸數	割合(%)
蘭印を中心とする航路	一一〇,六六八	三九.九
馬來	一一〇,四七〇	三九.七
佛印	二四,〇七〇	七.九
タイ	三三,〇七〇	一〇.七
英領ボルネオ	六三,〇〇〇	二〇.四
計	二四四,二〇〇	一〇〇.〇
▲昭和十四年末	總噸數	割合(%)
蘭印を中心とする航路	四二,〇五〇	三〇.七
馬來	一七,二二〇	一二.四
佛印	二五,二二〇	一八.三
タイ	四四,〇〇〇	三二.三
英領ボルネオ	六三,〇〇〇	四六.三
計	一五五,〇〇〇	一〇〇.〇

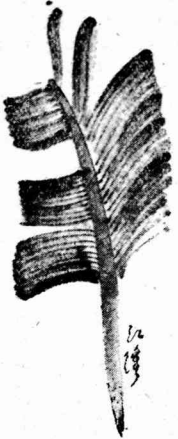
(備考) 配船トン數のみを表はす、且沿岸陸路船及び比島を起點とする船舶を含まず

## 現代

## ビルマ印象記

—タイ人の観たる—

ルアン・チャークラバーニ



本篇はタイ國々立文政大學講師控訴院判事ルアン・チャークラバーニ氏が昭和十六年十一月二十八日盤谷婦人俱樂部に於てなしたる講演の要譯である。原文は盤谷クロニクル紙記事に據つた。

我が西隣ビルマと申せば、諸君は直ちにタイ、ビルマ間に起つた數々の戦争を思ひ起されるであらう。就中武名を一世に轟ろかした我がナレースワン王が前後二回ビルマに侵入して速くホーンソワーチ及びツィンギーに到つた歴史を思ひ出さるゝであらう。當時我が軍勢が此れ等の敵地に達するには恐らく數十日否數個月を要した。然るに今日我々はビルマの首都ラングーンを訪るゝに飛行機を用ふれば僅か二時間を要するのみ。而かも敢て大軍を引き従がへて諸君の行くてを切り開きつゝ進むの要は無い。今日のビルマ人は我々に好意を持ち、喜んで我々を歓迎してくる。

## ビルマの第一印象

盤谷は大體米田と畑地に圍まれて居るが、飛行機から見たラングーンは、青一面の米田の真中に置かれた美しいオモチヤの小島のやうである。そして世界に其の名を知らるゝ一大金色塔シュウエー・ダーゴーン (Shue Dragon) が高く聳えて其の全景を見下して居る。飛行機はラングーン市を速く離れた河の上に着陸する。そして旅客は速力の早いモーターボートで市内に運ばれる。河の上から眼にうつるラングーン市正面の全景を一口に言ふならば、河の水際に沿つて長い堤防が築かれ、其の上をストランドと呼ぶるゝ一條の大街が河沿ひに走つてゐる。ストランドの片側には四階或は五階造の宏壯な現代式建物がギツシリと立ち並び、街路を挟んで河に臨んで居る。その堂々たる全貌はシンガポールを思はせるが、シンガポールに較べると全體が稍小規模である。此のシンガポールに似た感じは市中に這入つても大體變りがない。唯此處ではシンガポールに見る回教寺院が佛教寺院に置き換へられ、シンガポールの市中に群をなす支那人が此處では悉く印度人である。ラングーン市で目に立つことはビルマ人が一向に見當らぬことである。盤谷でもタイ人が比較的に立たぬがラングーンでビルマ人の目立たぬのは比較にならぬ。盤谷に支那人の多い事は確かであるが、實際の數から言へばタイ人三支那人一の割合である。タイ國に於ては盤谷を初め各都邑の軍官公署は全部タイ國人官吏、軍人で處辨されて居る。何處を歩いてもタイ國人の商店店舗が相當目に付く。又街路清掃はタイ人の手でやつて居るし、我が愛すべき三輪車夫も殆んどタイ人である。然るにビルマでは、大體印度人が總べてのことを取扱つて居る。諸官衙は印度人で一杯である。街路に行き交ふ人々は殆んど印度人ばかりである。警察官然り、街路清掃人夫然り、人力車夫も亦印度人である。ラングーン市内を一巡してビルマ人の店舗と云ふものは殆ど見られない。唯一個所シュウエー・ダーゴーン塔の入口にはビルマ人の店が在つて主に生花、眞鍮製の器具、傘等を賣いで居る。ビルマ人は大體斯かる人種であるが彼等は久しくタイ人に各種の鎮痛藥を賣り付けたからその返報



に今度は我々の方から有名な胃病の薬を賣り込んだら面白からふ。

四六

### ビルマの雑多な人種

ビルマの人口はタイ國の人口と略同じである。大體千六百萬である。此の内一千萬人がビルマ人で、其の他はカレン(Karens)人及び『大タイ』人と呼ばれる、シャン(Shan)人、チン(Chins)人、カーチン(Kachins)人、それからモーン人若しくはタライン(Talings)人と呼ばれる、ベグー人、印度人、支那人及び歐羅巴人等である。右の内カレン人は約百二十五萬、シャン人は百萬乃至五百萬と稱せられる。ウイテット・ワーターカーン氏は五百萬が正しいと言つてゐる。孰れにしても之等各人種は餘り仲が善くない。就中モーン人は約三十萬と云ふ少數民族中の少數民族である爲め最も不満を抱いて居る。モーン人は其の人口の減少した理由に付いて往時ビルマ人が手當り次第モーン人を殺戮し残つた婦女子と結婚した爲め純粹なモーン人の子孫は漸次減少したのだと云つて居る。ビルマ人は保守的な爲めにモーン人を今尙數百年來の名稱に従つて、タライン人と呼んで居る。そしてモーン人は之れを非常な侮辱と感じて居る。尤もモーン人が之れを侮辱と感じる理由は明瞭で無い。それは兎も角としてビルマの或る古繪畫を見ると、モーン人の舊都ハーンサワヂ即ち我々タイ人の所謂ホーンソワヂ(Hongsawadi)の最初の定住者は、帆船に乗つて海を越えて來た、頗る印度人らしい相貌の人種であつた事を示めてゐる。そこで考へられることは、ビルマからベンガル灣を越えた對岸は現にテールグ(Telugu Race)人の住地であつて、彼等の文字がモーン人の文字に似通つて居ることである。テールグとタラインは相通する所が有るから、ビルマ人がモーン人をタライン人と呼ぶのも強ち間違ひで無いのかも知れぬ。

ビルマ人は容易に他の種族を同化しない。彼等は印度移民に對して性的魅力を感じることが少ないので、之れとの結婚は稀れである。支那人はより多くの魅力を持ち又其の移住地住民の婦女と結婚することを躊躇しないが、彼等の子供は皆支那人の姓氏名を付けられ、永久に支那人として残る。因にビルマ人は今尙家族或は一門に通ずる姓氏名を持たぬ。シャン人即ち『大タイ』人は他の總べてのタイ族に於けると同様、常にタイ族即ち假令名目に過ぎぬとしても『自由の民族』として血統を維持してゐる。ビルマの人種は此の様に雜多で個々獨立して居るが、其の全體を總稱して之れをビルマ人と名付け、國民の統一に資してゐる。従つてビルマに生れた者は、ビルマ國民にならなくともビルマ人と呼ばれ得るのである。

### ビルマの統治

ビルマが印度と分離して、自己の憲法を持つに至つたのは既に久しい。ビルマには議會が有つて、人民が議員を選挙する。議會にはビルマ人のみならず、印度人、英國人及び支那人まで議員として選挙せられる。國の行政は最大政黨員を以て構成する内閣の如きものと、總督及び各省とが之れを運営して居る。政黨選出の大臣は所謂の政治に没頭して居るので、行政は専ら事務官僚の手に委ねられてゐる。ビルマ政界の頗る特異な慣行に就て一言するならば、最大多數黨の政治家は最も好ましい地位を獨占するに努めるのみならず治安維持の爲め或る場合反對黨員を監禁投獄するに躊躇しない。次ぎの選挙で反對黨が多數を獲得すると、投獄されて居た政治家が出獄して政權を握り、今まで政權に有つた大臣達を投獄する。

四七

ラングーンで見るに値するものが三つ有る。シユウエー・ダーゴーンと湖と大學とが夫れである。此の中シユウエー・ダーゴーン即ち金色塔が最も大事なもので、之れを見ぬことは恰も盤谷を訪れてエメラルド佛像を見落したと同じである。然るに歐羅巴人の多くは此の金色塔を見に行かない。其の理由は彼等が藝術に興味を持たぬと云ふ計りでは無い。ビルマでは寺院の境内に足を入れる場合必ず跣足にならねばならぬ。此のビルマ人の風習にオメ／＼従ふことは歐羅巴人の威厳にかゝはると言ふので、折角の金色塔も見に行かぬのである。然るに眞偽の程は知る由も無いが數年前英國の或る皇族がシユウエー・ダーゴーンを訪れて、自國官憲の反對にも拘らず平然と靴を脱いだので、多年斯かる事の有れかしと待ち構へて居たビルマ人を狂喜せしめたと言ふ噂があつた。之れを聞き傳へた歐羅巴人は茫然自失、今だに當時の衝動を忘れ得ないと云ふ。又或る時ビルマ人の暴動が起つた際、英國軍隊に追詰められた暴徒はシユウエー・ダーゴーン境内に逃げ込んだ。然るに英國兵は靴を脱がされてはたまらぬと言ふので、境内に這入らぬ爲め、暴徒は難を免れたと云ふ話柄もある。

シユウエー・ダーゴーンはラングーン市郊外の丘陵上に聳え立ち、周圍數哩の全景を一望に俯瞰して居る。巧みな均齊を見せる其の建築美と、燦然たる金色の光輝とは、見る者をして永く忘るゝ事を得ざらしめる。入口の敷物を敷いた階段を登ると其の兩側に數多の店舗が列をなしてゐる。恰もヴェニスのリアルトー或は盤谷のタバイン、ハーンを見る如くである。此の小店舗では生花、香、青銅の佛像、眞鍮製の器具、塗油布製の色取々の傘、絹の被服類等を賣いで居る。絹被服の上等のものは盤谷からの輸入品だと言ふ。主たる大塔の周圍には數百の小塔がある。一個の廣

い中庭があり、又多數の堂宇が相稱比して立ち並び、大塔の周圍を取り圍んで居る。之れ等の堂宇は木造であつて種々様々の彫刻を施し、且つ塗金してある。屋根は孰れもビルマの一般様式に従つて幾重にも重ね上げた層に成つて居る。之れ等の建築に見るビルマの木彫は恐らく現今世界に残る木彫中の尤なるものゝ一つであらう。ラングーン市外に在る湖水は廣ろく靜かで頗る清涼な感じを與へる。湖水と湖水との間を縫ふ並木道は巧みに布置せられ、市民は之れに杖を曳き、或は車を驅つて世塵を忘るゝ事が出来る。ボート俱樂部及び水泳場の設けもある。

大學の構内は數多き現代式建築の間を數條の道路が貫通し、恰も一小都市をなして居る。其の集會堂は二千人を收容し得る壯麗な一大殿堂である。教授或は講師としてビルマ人の外に歐羅巴人も居ると云ふ事であるが、此の大學ばかりは全くビルマ人によつて經營せられる施設だと云ふ感じを與へる。英國人は此の大學のみを以て優に彼等がビルマの爲めに盡した功績を誇るに十分であらふ。

### 現代ビルマ人の生活と文化

ビルマ人は頗る敬虔な佛教徒であつて、殆ど終日各所の塔或は佛像の巡禮をして居るやうである。然かしビルマに於ては、一方に於て佛教が動的であるよりは寧ろ靜的であるのに、他方に於て世俗の事柄が宗教を不當に侵迫して居る。ビルマの僧侶が政治上に大きな勢力を保持する理由を尋ねたのに對して、人民が其の指導者として眞に信頼するものは僧侶の外に無いからだとの説明を聞いた。

演劇と音楽は低級である。恐らく我がタイ國と異り、未だ政府が助長奨励の策を講ぜぬ爲めであらふ。ビルマ人の舞踊中最も優れたものは、彼等の所謂ヨツチャ舞踊即ちタイ舞踊である。ヨツチャはアニューチャの訛であつてビルマ

人はタイ人を今尚ヨツチャ人と呼ぶのである。ビルマのオーケストラを聴いたが、其の樂器は古色蒼然たる木琴とウアイオリン、それに牛乳の空罐を胴にした胡弓と一組の圓い銅鑼及び西洋風の太鼓であつた。此の樂器から兎も角もタイの歌らしい音楽が聞えて來たと言ふことは全く驚異と云ふ外無い。社交ダンスの如き現代的な各種の教養に對してビルマ人は背をそむけてゐる。ビルマの若い淑女は衆人の中で踊るなど云ふ事を夢にも思はない。服裝の改良など云ふ事もビルマ人は問題にして居ない。ビルマ服を用ゐぬ者が有れば、怪疑の眼を以て見られる。代議士に選舉されることを厭ふならば我々がタイ國で『世界服』と稱して居る洋服を著ればよい。洋服を用ゐるならば當選せぬこと請合ひである。婦人も亦苟も愛國心ある者は國服を捨つべきで無いと信じて居る。彼女達は美しいサーローング (Sarong) を纏ひ、頭髮は昔ながらの束髮に結んで、後頭に巻き上げて居る。西洋風の化粧品などは殆ど用ゐない。西洋風の物で多少用ゐられて居るのは踵の高い洋靴である。然し大多數の婦人はタイ國の僧侶の用ゐて居る鞋を穿いてゐる不思議に感ぜられることは東洋の日常禮法たる合掌の禮がビルマに於ては殆ど全く廢れて、唯宗教上の禮拜の時にのみ用ゐられてゐる事である。人々が對面の際互ひにサワチーと呼び交はす我が國の禮法の如きものも、ビルマでは行はれて居らぬ。ビルマ人は他人と會ふた時には只會ふ丈けで、互に交はす挨拶の言葉も禮法も全く無いと云ふことである。

### 資料欄

## 農業及林業の相互關係 (二)

——殊にタイに於ける——

タイ國農務省農務水産局土壤技師

ロバート・ヘル・ペンデルトン  
(Robert L. Pendleton)

タイに於ける土壤侵蝕

米國その他の國では、土壤侵蝕は人類の重大な害敵として關心を拂はれつゝある。タイでは河岸は、發動船に洗填されたり減水期に河岸の内側で農作を行つたりする結果、諸所に於て重大な侵蝕をうけつゝある。併しその他の多くの場所、殊に山と生産力ある低地との間では、岩が分解した後に残る風化殘留物質を土中に移動さすに十分な尋常の地質學的侵蝕が行はれなかつた。かういふ土地はスコータイとラヘーン (Rattanak) の間やクラビンとアラン・プラテートの間の道路沿ひに見られるし、ウドインの南方やウボンの南方にあるものやうに、東北部にも諸所に廣大な

ものが見られる。農民が胡椒や棉のやうな畑作物を植ゑようとするには、この貧弱な瘠地を五—一〇籽餘も越えて山腹に行かねばならぬ。この山腹はこの瘠地よりも肥えてゐる。といふのは、その土壤は、風化岩上に厚い濾化された被層を形成する機会をもたない内にその風化岩から漸次に侵蝕されたものである。この他に古い風化土壤を示すものとして底土の紅土水層がある。

これらの風化した古い土壤が凹地にあり、その結果周囲の山腹から流れる雨水がその上に集つて溜る場所では、土壤は決して肥えてはゐないに拘らず、水稻も栽培できる。茲に附言したいのは、米がタイの主作物でなかつたとしたらその熱帯土壤の中にはその驚くべき疲瘠さがもつとずつと明かにされる土壤もあらう。

### 白蟻の効果

これらの瘠せた土壤のある地域には、白蟻の巢が異彩を放つてゐる。白蟻の巢を構成してゐる土壤は、組織が重くて沃度が高いので重要である。白蟻の作用で粘土や炭酸カルシウムが移されて濃厚にされてゐるからである。その結果農民は、この巢を自然の形のまゝか又は頭部を平たく削り取つて利用し、この地方の普通土には栽培の出来なない野菜その他の作物をこれに栽培してゐる。

### 東北部タイの可能性

最近ジムマン博士は東北部タイの農業生産が大いに増加するであらうと豫測したが、博士をしてこの大增産を豫測させた土壤條件を完全に認めることは當然出来なかつた。今日までの吾々の研究では、博士の見積りは立證されさ

うにもない。色んな理由で作物の生産に供しえない土地がある點では、タイも他國も擇ぶ所がない。他國には乾燥にすぎたり鹽性に過ぎたり、荒地や山が多すぎたりして、農耕に適しない廣大な土地がある。幸にしてタイでは、農業に適しない土地は殆んど森林で被はれてをり、木材や燃料として貴重な硬材を著量に産出する。かうして今後も引續いて木材、燃料、その他の林産物を産出するやう、これらの貴重林の保存に心懸けねばならぬ。

色々な種類の土壤が對照されてゐる點で、また大人口の分布に於て、ウボン縣は恐らく最極端な例であらう。商業の中心地として重要なウボンの市街から離れると、河岸、低い多少給水のよい平野、中庸な沃度の凹地が栽培に供せられてゐる。それから廣大で開疎で貧弱な森林があるが、これらの林地は大部分焼畑作を行ふ價値がなく、白蟻の巢を除けば殆んど栽培が行はれない。併し同縣の南方や東方の境界附近には、山丘の下部斜面に農村地帯がある。これらの農民は、その山土の侵蝕が尋常で栽培に適するのを發見して住んだものであり、茲には陸稻の他に棉、胡椒、その他の作物が作れる。

### 中部(バンコーク)平野の農林業

最も有效な土地の繼續的使用と人間の最善の利益や安樂とを圖るには、燃料、木材、日陰、タンニン物質、防風などを供給するため、土地の相當な部分を森林にしておく必要がある。進歩した地方とされてゐる世界の多くの部分、例へば米國の如きでは、今日やつとこれを覺り初めた。タイの中部平野では、森林を發達させうる好條件に恵まれてゐる。少くとも農家の周囲や運河の岸堤には、もつと澤山の樹木を植ゑうる利便がある。併し樹木が殆んど植ゑられてゐないといふのではない。この平野ごとく某地方にはマイ・サケ(Combretum quadrangulare 譯註—タイで

は廣くステイツク・ラッタを産するラッタ虫の宿主樹に利用されてゐる)や砂糖椰子(Borassus flabillifera)が水田の畦に栽植され、その他の樹木や竹が水流の岸堤や農家の周囲に栽植されてゐるのは事實である。

金龜樹 (mekantet, pithocolobium dulce) インドラス・ソーン・マニラ・タマリンド)はこの平野の運河の河岸には特によく育つが、フィリッピンで行はれた農事試験では、この木は八歳になるとその樹皮に揉皮用に最良質のタンニン抽出物を二五%含んでゐる。

### 焼畑農業と古代文明の消滅

ビショップ博士の説によると、鋤が安南やメーコン諸平野に紹介されたのはほぼ基督の時代であつたが、支那へはその三世紀前に印度から紹介されてゐる。また博士は、アンコール最盛期のクメール人は確かに鋤を使用してゐたと云つてゐる。併し勿論その鋤は、今日タイその他の印度支那半島で使用されてゐるやうに、米田土壤の鋤耕用のみ使用されたものである。この地方でこれまで使用されてきた鋤は、決して畑地の草の處理に堪えうるほど丈夫なものではなかつた。

カムボヂヤを通る旅行者は、水稻を栽培するに充分で而も過多にわたらない水を得られる土地は、さう多くはないのに氣がつく。熱帯に水い經驗のある林業家のキットフォード博士(Dr. H. N. Wifford)一九三七年七月筆者に語つた所による)は、數回にわたり飛行機上からカムボヂヤ殊にアンコールを視察した所により、この地域ごとにアンコールの周囲には大面積にわたる二羽柿森林があると語つてゐる。また氏の觀察ではアンコール南方の大湖(タレー・サープロントレ・サーブ)の周囲には、古代及び現代に於て水田耕作の行はれた證據は少ししかみられないが、併し

水い間放棄されてきた古い大面積の水田がある所もあり、草地即ちパラン(Palang)地には此所彼所に新水田が作られつゝある(パランは例年の火事に耐えうる少數種の小型樹が散生する防火草原である)。また、アンコール地方やその西方のタイ國境にわたる地方には廣面積のサヴァンナがあるが、これは住民の食料を生産する移動耕作の需要が漸次が増大し、その結果焼畑の度數、即ち草火事がますます殖えて、終に人工的なサヴァンナを持續するやうになつたものである、といふ點にも同意した。更に氏は、中米に於ける諸事情を研究した後、同じ理由でマレー人も滅亡したものと信ずるに至つた旨も附言したが、その同じ理由といふのは、焼畑移動耕作による生産増加に力めた不可避的結果として不毛の草原が生じたから、従つて食料の缺乏を來すに至つたことである。博士は更に言を續けた、多雨下の熱帯土壤は、コゴンその他の草を掃除し得たとしてさへ、唯一回の一年生畑作物の生産力しか永久に維持しえない、恒久的生産力ある畑地土壤を維持するには、是非とも森林作物が必要であると。

アンコール地方の住民が消費した食料は、舟や荷車で著量に他地方から搬入されたが、大部分は自ら焼畑法で畠地から生産せねばならなかつた。併しこの地方の人口が増加するにつれて土地の需要が増大するやうになつたから比較的貧弱で瘠せてゐるこの地方の土地では、最早焼畑作の後の再生林が雜草を枯らし地力を回復する十分な機會が與へられなくなつた。かうして草地はますます擴大し、一方栽培できる土地は次第に減少した結果、食料の供給量は非常に減少したものである。

アンコールの實際の陥落は、侵入民族の兵力が優れてゐたことに歸せられるが、併し一方アンコール地方が備へてゐた生産地やその住民が得てゐた適當な食料供給に比して、明かに住民の抵抗ぶりはすつた弱少であつた。ビショップ博士は筆者に宛てた一九三八年五月二十一日附私信に於て次の如く附言してゐる……貴下は、貴下がキットフォード



ド博士の所言を語つて下さるよりも前に、クメール文明は農收漸減の法則が適用された結果崩壊したといふ、興味あるとして私には尤も至極だと思はれる示唆を與へられたが、當時すでに私もマヤー人 (Mayas) についてさう考へてゐた。御承知の通り私は彼地に一季節間ほど仕事に行つた。そしてその間常に心に浮んだことは、あの偉大な石造の大建築物が文字通り藪に埋もれて荒れはて、而も何ら曾て防禦工事を施したり敵に攻撃されたりした證據もなく、また何らこれらの建造物が放棄された理由を示すものもないのは奇妙である、といふよりは寧ろ不可解であるといふことであつた。これら建造物の多くは恐らく殆んど全部は寧ろ都市の中心をなす性質のものであり、その周圍には幾哩かに亘つて藪の中に小さい土手があるが、これは一般に人民が住んでゐた跡であることを確示してゐる。これら居住跡が放棄された所以が、農業の失敗にあることは殆んど確實であると思ふ。同じことがクメール人間にも起つたのはありさうなことだと思ふ。米國農務省の植物學者クック博士 (Dr. Q. F. Cook) は、曾てマヤー文明の滅亡を同様に説明したと聞いてゐる……。

コゴン地の發達が、その他の熱帯文明ことにセイロンのアマラダプラ (Anuradapura) 文明の衰滅に寄與した重要な要素とならなかつたかどうかは、不審とせざるを得ない。

アンコールを訪ねたことのある讀者中には、多分、この遺跡の周域の比較的豊富な植物群落、殊にその遺跡所在地のよく繁つた森林を思ひ起して、上記の土壤不毛化や草原の發達の説明にこれがどう適合するのか、不審に思ふものもあらう。これについては次の二つの要點を留意すべきである、(一)幾世紀にわたりこの地方に人間が濃密に居住した結果として、古都の中心に近い土地はこの地方の平均土壤よりも明かに燐その他の植物養分が濃厚である。(二)この跡地は久しく放棄され、今日その土壤は殆んど栽培に適かないから、森林が再び繁茂する機會を得たものであり

現に今日この森林は保護されてゐる。コーラト地方に於ても、古代に移民が定住した結果として今日なほ土壤がその周邊よりも異つてをり一層肥沃である村落の遺跡を數ヶ所(十二世紀のモーンの町趾であるウボン縣の Ban Bung コーンケン縣のマハーサーラカム道路上の Ban Pan) 觀たことがある。

### 北部の山地蠻の森林損壞

タイの種族構成の複雑と文化とを生んだ重要素の一つは、西南支那やその隣接地域よりの人間の不斷の侵入であつた。スワンカロークやスコタイ、並に再前に今日のタイ領内のもつと北方に建設された移民地は、これら北方よりの移民群によつてどの程度に強壓されたものであらうか、またその住民はどの程度に食料供給難によつて弱められたものであらうか？ それは兎も角、今日もこれら北からの移民の侵入は繼續されてをり、新來の移民群は山の嶺に上り、こゝに定着してゐる。これらの移民群のうちもつと北方に住む者―例へばミヤオ(苗)のごとき―は、比較的高い谷床で米作を營んでをり、支那に於てはその近親族は樹木を栽培して材木をとると云はれるが、タイに於てはあらゆる様式の移動耕作で自族の食料を生産してゐる。彼等は環境に適した農法をもつてゐる。通常山腹の下部で―時には彼等の部落の下方幾軒にもわたつて―焼畑に食料用の陸稻を栽培してゐるが、夏の雨季には家畜用玉蜀黍も栽培する。この玉蜀黍作には冬には阿片を輪作する。かうして同じ土地を時には八―一〇年間も利用する。平地に住むことを嫌ふから、これらの蠻族は殊に森林に破壊的であつた。

後の様式の栽培は、明白な理由(譯註―秘密栽培)により近年は山の高い隠れた谷のやうな比較的近寄り難い場所でのみ行はれてきた。森林被覆の特徴にあらはれた充分な證據によると、これら山民は以前は諸地に於てもつと廣面

積の栽培を行つてゐた。その他の地方―チェンラーイやナン附近―では、地方住民の記憶の限りでは、山地蠻民がかうして行ふ山林損壞の増加により水流の灌漑用水供給は非常に減少し、ナンの西北方やチェンラーイの南方では良好な米作用水の供給は最早期待できなくなつた程である。

### 北部に於けるその他の農林關係

貴重材をとるチークは、通常丘や山の基部の周囲や河岸附近の排水良好な良質の土壤に群や小林をなして散生してゐる。この散在性はチーク林の適當な管理を極めて困難にしてゐる。このチーク林の土壤は、陸稻やヴァーシニア型煙草にもまた好適である。従つてチークの保護が極めて有効に行はれないと、收穫の速い作物を栽培するため出来るだけ良質の土壤を使用したがる農民により、チークは驅逐される可能性が多い。

貴重なベイトやワニス油を採るため栽培される桐 (GEO) やその種の樹木は、タイではまだ重要な要素となつてゐないが、西南支那の大概の重要給源が殆んど伐採されたから、西洋ではプランテーション法でますます廣面積に栽培されつゝある。北部タイでは伐木して仕舞つた土地に既に試験栽培が行はれてをり、栽植面積は著しく擴大する見込みである。一大栽植家の立證した所によると、栽植園に最初の二ヶ年ばかりは木瓜を植ゑると、桐の純粹栽植の經費や不利は一掃することが出来る。かうしてこの栽植家は、昨年は七〇〇英反以上を處理した。木瓜はその果實からとれる乾燥乳液をすれば資木の回収が早い。それに園に草が生えるのを防止してくれるし、桐が少くとも土地の日陰となるくらゐ生長するまで土地の日覆ともなる。

ベテル葉や檳榔子の咀嚼用にある種のタンニン樹皮やタンニン抽出物が一般に用ゐられる。このタンニン物質はタイ人にシーシアト (Siat) と呼ばれ、諸種の二羽柿屬樹の樹皮や *Acacia catechu* (譯註―タイ人はマイシーシアト即ちシーシアト樹と呼ぶ) の心材から抽出される。メー・インの上流域を占めるチェンカム (Chengkam) 郡では、農民は良土壤にこの樹を栽培する、一―一五年間生長させた後これを伐採し、その心材を煮沸して抽出液をとり、その抽出液を更に煮つめて水分を蒸發させ、型に嵌めて小塊とする。

### 南部タイの農林關係

チュムボーン北方のゴゴン草原については既に注意を喚起した。すつと南に下つてヤラー縣その他の場所には、森林資源の重大な減損が續けられてゐる。パターニー縣その他では廣大な草原があるが、これらの平原もまた火事を防げば勿論森林に歸復するであらう。併しこれらの平原が焼畑栽培の結果として發達したものでどうかは疑問である。その土壤は酸性に過ぎてゐるし、ある種の諸養分は非常に不足してゐるから、施肥しないでは作物を栽培する價值がないやうである。従つて焼畑農法では作物はとれない。

次に園藝栽培法に對する「森林」栽培法の問題がある。温帯の果樹園や葡萄園の栽培に慣れてゐる一般西洋人は、熱帯に於ても栽培園を同様に處理したがる。これは今日では一般に誤りであると認められてゐる。リンクラー (譯註―外人名シンゴラ) 附近の鹹湖中の諸島では、恰も林樹のやうに數多の果樹を栽培してゐる。第八圖 (譯註―ソングラー鹹湖のヤー島の果樹「林」の寫真で、ラムプータン (留子)、サントル、その他の果樹が胸高の下生えの中に不規則に植ゑられてゐる) の通りである。毎年果實を收穫する前に下生えを刈り拂つてその儘これを地上に残置するが、併し決して土地を耕すことはない。併しその結果は優秀であり、土質の低下も破滅的な侵蝕もないし、耕鋤費も要ら

この地方ではヘヴィアゴムも排水と土質の良好な土地にごく一般に栽培されてゐる。その栽培法は稍々密植である。この栽培法では廣面積にもつと開疎に栽植する場合(歐式プランテーション法)よりも單位面積あたりの實際收量は多い。土地の耕鋤は避ける。かくて選擇的な除草をし多少下生えを手入れする。この農法によると土壤の侵蝕が防止されるし、地力もまた保持され、農園維持費は少なくて済む。

半島を下ると數多のココ椰子が栽培されつゝあるが、廣面積のプランテーションとしては減少に栽培されてゐない。通常住居の近くに栽培されて、家庭や部落の廢物を施與されるが、瘠せた土地ではこの廢物の施與が良收穫と無收穫との別れ目となる。

### 要 結

森林は多量の水分を發散さすし、降雨量の二〇%まではこれを制止して地下に送らない。併しながら森林は、有機物を生産することにより、森林のない山腹よりも多くの水分を土中に浸透させるに便し、實際に流去して仕舞ふ部分の雨水の流速を減殺してその有用性を高める、即ち、森林は水流を年中殆んど一定ならしめ、流水を清澄に保ち、これによつて流床その他あらゆる關聯的利益を保護する。

先驅人や原始人は常に樹木恐怖をもち、焼畑農法を用ゐた。焼畑農業は、過度に行はれると、毎年の火事により不毛草原が擴大され、ために住民の絶滅を來す。かうして生じた草地は、從來原始民族が使用した唯一の農具である原始的手農具を以てしては耕耘し得ない。例年の火事は森林の再生もまた妨止する。

焼畑農法は丈夫な鋤や強力な牽引用獸又はトラクタの援助により、溫帯西洋に用ゐられるやうな園藝的な農法に換へることが出来る。併しこれらの様式の農法は土壤の侵蝕を促し、急速に地力を疲弊さす。ゴム、茶、コーヒーを栽培する熱帯土壤は、これらの栽培様式の適用により重大な損害をうけて來た。

熱帯土壤は通常想像されるほど肥沃ではない。森林の繁茂ぶりが地味を低下させてゐる。森林清掃後の地力減退は溫帯地方の土壤よりも急速である。

殊にヘヴィアゴムの栽培土壤には「森林」栽培法を用ゐる傾向が顯著である。この方法によると土壤は永久的な被覆作物に被はれ、侵蝕が防止され、地力が保護される。

土地を保護し、全住民の最善の利益を圖るべきであるとすれば、森林と農業の均衡ある發達が必要である。蓋し人間には樹木物産も一年生の穀物その他類似の作物も必要であるのみでなく、この兩種の作物は、いづれも極めて弱くて損じ易く且つ改良の遅い土壤に依存してゐるからである。

土壤侵蝕は過度にわたると極めて重大で、土壤を完全に破壊するが、併し地表の完全に風化して瘠せて仕舞つた物質を徐々に排除する侵蝕もある。

註——本稿を上梓中次の興味ある記事を Steiger-Beyer-Bentz: A history of the Orient, pp 160-162 に發見した。「併しながら約一三〇〇の頃、アンコールは恐るべき大變災を蒙つた。メーコン河口は泥土の沖積によつて閉塞され、その結果河水は逆流して同市の全周域に氾濫し、ためにその沃野は一朝にして大面積の無用の沼澤地に變じた。茲に同市やその周域の住民は、移住するか飢ゑあるかの餘儀なきに至つた。」(The Journal of the Thailand

Research Society, Natural History Supplement, Vol. X, No. 1; Dec., 1939, pp. 33-52). 宮原義登譯



# タイ國の糖業問題

藤澤好雄

はしがき

- 一、歴史的考察
  - 二、栽培面積及生産方法
  - 三、砂糖の生産、輸出及び自給状況
  - 四、タイ糖業の將來
- むすび

はしがき

タイ國において往時榮えてゐた資源の一つとして砂糖があるが、東亞における資源の開発がわが東亞共榮圈經濟發展上焦眉の問題であるとき、タイの糖業がいかなる理由により衰退の過程を辿つたものか一應探究の必要がある。これ本稿執筆の理由である。

## 一、歴史的考察

(一)概況 甘蔗の栽培がタイ國においていつ頃から始められたものであるか明らかでないが、十八世紀の末年にはすでに年々二—三萬ピクル以上の砂糖が輸出されており、タイの重要商品の一つに數へられてゐた。

由來タイ國は甘蔗栽培に好適した自然條件を備へてゐることにより、その後農民間に甘蔗の栽培が普及し、一八五九年には糖業は最隆盛期に達し、年額二〇三、五九六ピクルが國際市場に仕向けられてゐたといはれる。しかしこれを轉機としてタイの糖業はジャバの糖業の影響を受けて衰退を餘儀なくされ、往時の砂糖の輸出國は逆にその輸入國に變つた。

(二)甘蔗の栽培地 甘蔗の栽培と砂糖製造工業は國內いたるところにおいて行はれてゐたが、中でもバンコーク附近、アユタヤー、プラチン、チャンタブリー、時にナコンチャイスリー附近が商業上主要生産地であつた。

製糖業は最初の段階においてはきはめて粗放な原始的技術が採られてゐたが、——今日においてもこの方法で自給自足が營まれてゐるところもある。——その後砂糖輸出量の躍増に伴ひ、次の如き施設の改良が加へられた。

すなはち一は一八六三年ブラ・パシ・ソムバットポリブンによつて、一は一八七〇年に當時蒸氣式製糖技術を採用してゐた印度支那砂糖會社によつて施されたものであるが、ソムバットポリブン氏はタイの製糖業が非常に利益のあがる企業であると考へ、これを助成するためにバンコークとナコンチャイスリー河畔にあるかれの製糖工場とを結ぶ運河(Pasi Charoen Kleng)を開鑿し、これと同時に Lat. Tachin とよぶ水路をも、修理してバンコークへの砂糖輸送を便利ならしめた。

十九世紀始めの記録に徴すれば、砂糖の輸出は總出額の一五%を占めており、その後ヨーロッパ商人の着目するところとなり、タイの砂糖を獨占するために盛に競争が行はれ、イギリスを始め歐米諸國によつて次々に通商貿易の締結を迫られたのも、その原因の一端が砂糖の廉價購入を目的とするものであつたことはいふまでもないことである。

かくの如くタイの砂糖が世界市場の耳目を引き、糖業がタイ經濟の基調をなすにいたつたのは全くタイ砂糖の品質がきはめて優良であつたため、バーンコークは砂糖と武器又は諸製造品の交易のために貿易港としてきはめて繁榮してゐたものやうであつた。バーンコークを中心とし各地に運河が開鑿され、道路が建設されたのも畢竟糖業助成のためになされたものが多かつたが、しかしその努力も豫期した成果を擧げることとならず、一八七〇年以後輸出はいちゞるしく減退することゝなつた。

タイの糖業がいかにして衰退したかその原因はいろいろあるが、外部的原因として一には砂糖が政府の獨占事業となつたためであつた。政府は最初は砂糖税を課するのみにとどまつてゐたが、間もなく砂糖貿易を獨占し、砂糖の輸出を激減せしめる素因を作つた。即ち獨占貿易時代においては、砂糖の輸出は大體五〇、〇〇〇—九〇、〇〇〇ピクル程度を上下してゐたが、一八五五年の英泰條約によつて獨占制が廢止されてから、一八五九年には一五〇、〇〇〇ピクルと飛躍したことによつても明らかであらう。

更に糖業を不振に陥らしめた他の原因は、上述の Lat. Tachin 運河の開鑿によつて甘蔗畑に鹽水が流入して莫大な被害を蒙つた結果であつた。

(三)糖業衰退の原因 タイ國における糖業はいかなる理由によつて衰退したが、前述の外部的理由の外、技術的に次の四項が擧げられるであらう。

(イ)工場經營者と甘蔗栽培者との利害の衝突。工場は曾つて一ライに付き二四銖で栽培者より甘蔗を購入してゐたが、これが購入料金を引き下げるとともに、その代價は工場が精製し、賣却した後に引渡されることとなり、さらに各種の手段を講じて農民に甘蔗の自由轉賣を禁じたため、甘蔗の栽培普及はこれを期することが出来なくなつた。

また工場の經營方法もきはめて粗笨であり、技術的にも脆弱性を免れなかつたため、大量生産を行ふことは困難であり、甘蔗の栽培を促進せしめる役には立たなかつた。

(ロ)工場主が政府の收稅官をも兼務してゐた關係から製糖技術の改良を怠つてゐたこと。

(ハ)華僑經營の精米所がバーンコークに設置されてより、米の生産及び輸出力が急激に發展し、技術的に生産の容易な米作業に農民が轉向するにいたつたこと。

(四)ジャバ糖業の勃興 かくしてタイの糖業は次第に困難な行程に達着し、各地の小工場は別として、商企業としての製糖工業はデョルブリー地方のものゝみとなつた。是がためナコンバトム附近に約三、〇〇〇ライの甘蔗栽培地が設けられ、その中六〇〇ライは Red cane (此種の甘蔗は、一ライにつき二〇〇ピクルの生産高を示す)が植え付けられた。これはそこに砂糖工場を設置して不振に陥りつゝあつたタイの糖業を復活させる意圖の下に施された計畫で、これは謂はば技術的改良の試験的なものにすぎなかつた。

## 二、栽培面積及生産方法

(一)砂糖の種類 タイ國において砂糖を取扱ふ場合に、あらかじめ砂糖の原料の種類を知つておく必要がある。タイの砂糖には甘蔗糖の外ココアナツト、パルミラ椰子(全砂糖の二割以上を占めてゐる)から製造されたジャガリ

I Jaggery とシ、粗糖がある。ジャガリーはこの外アタツブ椰子及びその他の植物からも生産出来るが、これは量的にもきはめて少量で問題にはならない。

(二)甘蔗の栽培面積 最近の統計は不明であるが、一九〇七年より二〇年までの栽培面積の趨勢は次の通りである。

第一表

年	栽培面積(ライ)
一九〇七	四三、一二四
一〇	三八、五四二
一四	四二、五三〇
一七	五〇、五一
二〇	五七、二二四

本表によつて明らかである如く、甘蔗の栽培面積はここ十四年間に跛行的發展を示してゐるにすぎない、その主な栽培地はブラチン、ナコンチャイシー、ピサヌローク、ナコンラヂヤジマ等で、その他の地方においては僅か四、〇〇ライの甘蔗が栽培されてゐるにすぎない。

(三)甘蔗の種類 製糖に用ひられる甘蔗には Siamese Cane として知られてゐるものの外、食用に供せられるシガポール種甘蔗、レッド種、ローズ種等があり、いづれもその性質を異にしてゐる。すなはち長さ六呎に切られた甘蔗の重さはシヤム種の甘蔗においては三―四ポンド、シガポール種四―五ポンド、レッド種は一、五―二ポンド位となつてゐる。しかしこの中でもシヤム種の甘蔗糖は實驗の結果外被が薄く、糖分の含有分も最も高いと稱せられる甘蔗の栽培はこの國に澆灌技術が充分發達してゐないため、主として雨量と湿度に依存するものであるが、甘蔗は

十月から四月までの乾季に植付けられて成熟するまで約一年かかる。單位生産量は一ライ當り凡そ二五〇ピルクであるが、これも氣候條件と土地の肥沃度の如何によつて毎年一樣ではない。また甘蔗はその性質上精糖により重量は七%内外に輕減されるものである。

(四)製造方法 甘蔗は突起のある木製のローラーにかけられ、水牛に牽引させてかき混ぜ、これを數回つゞけることによつて生じた糖汁を蒸鍋の中に入れてこれを精製するものであるが、かくの如き原始的な精糖方法では優良なる精白の砂糖の採取は困難で、通常褐色または黄褐色を呈する粒大の結晶した粗糖が製せられてゐた。これがため最近黄褐色の粗糖をさらに精白するために、底に穴を開け糖蜜の流出できるように仕組んだ深さ三〇吋位の陶器に入れ一ヶ月間これを加熱することによつてある程度まで優良の砂糖が得られるやうになつたが、この方法は尨大な時間と費用を浪費するのみならず、技術の不備によつて精製の途中甘蔗糖の四割近くは散失されるもので、沸騰による減量をも加ふればその損失はきはめて大きい。

統計によれば、デョルプリー地方では二〇ピクルの甘蔗が精製されて一、四ピクルの褐色糖に減少するが、實驗の結果甘蔗は第一の工程によつて九%の纖維と九一%との糖汁に分離され、糖汁は加熱されて一六%の糖蜜となるが、さらにこれが精製される間に徐々に失はれて二〇ピクルの甘蔗が最後にはその九%の一、八ピクルに減少する結果となり、かくの如く製糖技術の不完全から起る損失は莫大なものがあつた。タイの糖業が近年不振に陥つたのは蓋し技術の脆弱性によるものに外ならない。

(五)ココ椰子糖 プラ、プラーデン地方及びサムット・ソククラム地方においてはココ椰子より砂糖が製出されるが、これよりの生産額は一九〇七年の三一、九三一ピクルより一九二〇年には六七、八九〇ピクルと二倍以上上昇

したが、この種の砂糖は専ら製菓用に用ひられる。  
 この生産方法もきはめて簡單なもので、ココ椰子より採取された糖汁を煮沸させ、更にこれを浅い煮鍋で蒸發させ得る方法である。またココ椰子からは毎年一本につき一ピクルの砂糖が生産されるといはれ、精糖は褐色、粒状の糖分の多い結晶物である。

(六) **パルミラ椰子糖** この糖業は主として半島部のパタニー及びベチャブリー地方において行はれてゐるもので、主として菓子原料として用ひられ、最近では重要性を加へつゝある。その生産高を見れば一九〇七年の二〇五、六一五ピクル、一九二〇年の二一三、六五〇ピクルでその間に大した發展を示してゐない。

このパルミラ椰子糖の生産方法も前記ココ椰子の場合と大體同様で、一本當り生産高は一ピクルとなつてゐる。

### 三、砂糖の生産、輸出状況

タイ國における砂糖の生産額は次表の如く僅かながら發展しつゝあることは注目に値ひする。

第二表

	一九〇七—一三年平均 (ピクル)	一四—二〇年平均 (ピクル)
パルミラ椰子糖	二〇九、二七五	二一六、六八七
ココ椰子糖	四〇、五四二	五六、六八三
精白糖	二一、八八	三、六六九
甘蔗糖	一二五、九九七	二〇五、六五六
褐色糖	一五六、四四三	一七八、一九一
蜜	二八四、六二八	三八七、五一六
計		

砂糖は十九世紀の中葉までは盛に外國に輸出されてゐたが、當時の砂糖輸出額は一八二九年より五〇年までバーンコークに滞在して砂糖の賣買を行つてゐたマロック Malioch といふ商人によつて次の如く推定されてゐる。

第三表 一八四九年の砂糖の生産及び輸出高

	生産(ピクル)	輸出(ピクル)	一ピクル當價格(バート)
甘蔗糖	五、〇〇〇	二、〇〇〇	一三—一六
褐色糖	一三〇、〇〇〇	九〇、〇〇〇	五—八
椰子糖	一五、〇〇〇	一五、〇〇〇	二—四

その後、先にも述べた如く、一八五九年を最頂點としていちぢるしく衰退したが、一九一四年頃よりやゝ恢復し、一九一四年には一七、七二三ピクル一九年には七一、七七六ピクル、二〇年には七九、八二六ピクル輸出されるやうになつた。

かくの如く輸出力の擡頭した原因は一時ジャバ糖の輸出禁止が行はれたためであるといはれ、タイの砂糖のみでは到底國內消費をも完全に充たし得ないのである。  
 すなはちこれは次表の自給状態によつて一層明らかとなるであらう。

第四表 タイ國の砂糖消費量

	一、タイ國において生産される砂糖量	量(ピクル)	價格(バート)
パルミラ椰子糖		二〇七、七〇一	二二九〇、九四二
ココ椰子糖		三八、〇三〇	五九六、三一〇
甘蔗糖		三三五、〇〇九	一、八六七、八二二



二、同輪入量	五七〇、七四〇	四、七五五、〇六四
精製糖	量(ピクル)	價格(バート)
糖	三四二、七五一	三、二八一、一四一
輸入	一〇六、四〇一	一七九、三七九
合計	四四九、一五二	三、四六〇、五二〇
需要量	一〇、一九八九二	一〇、四一五、五八四

右表によつて明らかである如く、タイ國內の需要量は百萬ピクルで、その四割以上は輸入に俟たなければならぬ状態である。その後人口増加に伴ふ消費量の増大により、輸入量は年々増加する傾向にある。近年タイ政府が甘蔗の栽培を奨励し、之が自給化をはかりつゝある理由は全くここにあるのである。

#### 四、タイ糖業の將來

タイ國の糖業は、甘蔗の栽培方法の粗放と製糖技術の幼稚のため著しく不振に陥り、剩へイギリスの不開發政策によつてタイ經濟自體が米への偏倚栽培が餘儀なくされたが、ジャバ糖業の發展を擁護する立場から、糖業の發展の可能性顯著なるタイ國に不開發を強ひ、砂糖輸出國を輸入國に轉落せしめたことは、暴戻きはまる英米の植民地政策が與つて力のあるものであつた。

しからばタイ國民經濟の見地から、さらに東亞共榮圈經濟より見てタイの糖業を發展さすためにはいかなる手段がとられなければならないか。その爲めには資本と技術の注入が最肝要であることは歎々するまでもなく、具體的には

先づ次の如き方法が考へられる。

- 一、甘蔗栽培地と精糖工場との密接な聯關を保たせ、灌漑設備を施して、用水の圓滑なる調節をはかること。
- 二、製糖技術を改良して、低廉なる生産費をもつて、生産量の増大をはかること。
- 三、甘蔗栽培法を改良しさらに交通機關を完備して流通の圓滑をはかること。
- 四、製糖工場經營の資本主義化。
- 五、農家に甘蔗栽培を副業として奨励し、極力技術の指導にあたること。

#### むすび

タイ國における甘蔗の栽培及び製糖業は今や着々としてその緒に付き、目下タイ國經濟省の管轄の下に官營事業として、北部ランパン市郊外に工場が建設され、將來大いに有望視されるにいたつた。

蓋しタイ國糖業の發展は、今後に期待する所益々多いであらう。

## タイ國の通貨政策再編成

七二

### 金本位制への復歸と銖の諸問題

タイ國は去る一月二十五日の對米英宣戰布告を契機として、政治經濟各分野の戰時態勢切換へに全力をあげてゐる。とくに英國の枠下にあつて經濟分野において、その再編成の急務が痛感されるのであるが、この際タイ國政府がこの第一着手として金融通貨部面をとりあげたのは、經濟活動の源泉がそこにあるだけに當然の順序である。すなはちタイ國政府は去る一月三十一日、タイ國の通貨パートの磅離脱、金本位制への復歸を決定、二月一日これを公布した、これと同時にパート發行準備制度の改變、さらに爲替管理斷行の態勢を整へた。これら一聯の性格はタイ國金融通貨政策の劃期的な轉換を意味する。

しかし驟つて國際的決濟手段としての金の現在における役割に照らす時、金本位制への復歸はむしろ逆行でさへある。しかもタイ國も大東亞金融圏の一環を組織する以上、パートの基準は當然日本圓に求めらるべきもので、かく併せ考へると今回の措置は新展開途上の過渡的段階とも見られる。近き將來に於て必ずパートの日本圓リンク問題、之と關聯してパートと日本圓

の換算率改變が具體化するであらう。その必然性を理解するために今回の改革をいさし具體的にみたい。

タイ國政府は二月一日、昨年十二月十二日公布の金融通貨法にもとづく大藏省令を公布し、パートの磅離脱、すなはちパートと直接交換による磅の受拂ひを停止し、同時にパートの基準を金に求め、金純分〇・三二六三九グラムにつき一パートの割合で法貨と直接交換する旨を公表した。パートはすでに一九二三年以來、一十一パートの爲替相場を決定し、その間一時金にリンク（一パート純金〇・六六五六七グラム）したが、一九三二年金本位を停止して磅リンクに切換へ、爲替相場はそのまゝ引つゞき踏襲して今日に至つた。今回金本位制への再復歸とともに決定したパートの金純分割合〇・三二六三九グラムは從來のタイ磅爲替相場一磅一十一パート、ニューヨーク市場の相場一オンス三五ドルを英米クロス四ドル三セントで裁定したもので、實際には別に新しい基準ではない。これはあくまでも經濟界に急激な變化を與へぬ配慮から、從來の基準を單にポンドから金に切換へて算出したものである。従つて反面、急變轉の新事態に對應するものでないともいひ得る。

### 圓の實質的價値は飛躍的増大

今回の金本位制復歸はタイ國政府が新割合によつて金の受入れを認めたのみで、パートの金兌換を許したのではない。さらに東亞共榮圏における金の役割からみてもこれによつてパートが特に信用を倍加したと思はれない。タイが東亞共榮圏の一翼をなす以上は指導的地位に立つて日本の國力の表徴たる圓に、その基準をおいてこそはじめて安定し得るのである。この意味でパートの圓リンクは眞剣に考慮されねばならない。

これと同時にパートの對圓換算率の改變はさしせまつた重要問題である。本年一月一日より實施の公定換算率は、百パートにつき百五十五圓七十錢で、これは從來のそれを踏襲したに過ぎない。一方着々建設の歩を進めてゐる他の大東亞共榮圏地域にあつては、圓滑なる軍票の流通を見てをり、佛印のピヤストルが百ピヤストル九十七圓五十錢とほぼパーの關係にある。従つてパートのみが他と甚だ平衡を失して優位を保つてゐる。これは將來必ずや共榮圏内における圓滑な物資交流を阻害する。特にタイの輸出品は他との競争となつた場合、深刻な打撃を受け、ひいてはタイ國內は不景氣を招來する危険が甚だ多い。

さらにこれまでタイが出超國であるため、英米の擲取（ゴム、錫などの無爲替輸出、英米投資の配當、華僑送金）年四千萬パート乃至二千五百萬パート）など巨額に上り、支拂ひを差引いて

もなほ三、四千萬パートの受取超過を續けてきた。タイの金融組織は直ちにこの受取超過だけの國內通貨増發を結果した。

今後はしかもこの貿易外支拂はほとんど無くなる。その上戰時における國防の増強は、通貨膨脹に一段の拍車をかける、この側面からみてもインフレの危機は大きいのである。これにはパートの換算率引下げによつて國際收支を平衡化させることが緊急の課題となつてくる。

また別個の観点からしても、物資豊富な南方諸地域を背景とした圓の實質的價値は、從來のそれよりも飛躍的に増大してゐる。その際對パート價値が從來通りであることは矛盾でさへある。この意味でパートの換算率の改變はパートの引下げではなくて、圓價値増大の結果といへよう。

たゞ問題となるのはこの新換算率である。タイが今回金に對して決定したパートの交換比率が日本における金の買上値段一グラム二圓八十五錢から換算した平價は、一パート一圓二十五錢強となる。しかしこれは現實の爲替相場と無關係であることはもちろんであり、また今後の新換算率に何らかの目安を與へるものではないことも確實である。しかし漸進論者は新換算率を百二十圓程度に置いてゐる。それは以上のごとき根據とかつて英米クロスが低落した際現實に百二十圓の相場を經驗したのによる。しかし改變の理由が右の如きものである以上圓、パートは等價がその理想であり合理的である。

為替貿易管理と戦時金融問題の急務

パートの従来の発行準備は金と英貨ならびに證券(一部は米貨ならびに米債)で、ロンドンにあつた。しかし開戦によつてこれはすでに英米に接收され、この結果従来の百パーセント準備は改正を餘儀なくされた。今回の大蔵省令によつて新に政府公債、國庫證券の二種目が発行準備に追加された。しかしこれも圓リンク問題と関連して、將來日本圓が當然加へられるべきものであらう。

タイ國政府は二月一日外國為替管理法を公布した。その内容は大陸日本のそれに倣つたものである。これまで資本の國內蓄積を阻害してきた資金の海外送出を抑制するのが眼目であり、戦時下貿易管理とともに當然の措置である。これは近く實施の運びである。また政府は今回各食糧、原料品、工業製品等あらゆる部門にわたつて輸出入の許可制を斷行し、戦時下物資の確保に積極的態度をとつた。しかしこれはすでに米、ゴム、錫などについては實行中のもので、對日貿易に別段影響を及ぼすものではない。

是までタイには中央銀行の機構はなく、紙幣は全部大蔵省が発行してゐる。また國內金融は専ら香港銀行始め英系銀行が左右しこれに依存してきた。しかしこれら英系銀行並に華僑經濟の中樞金融機關たる重慶側銀行はいづれも敵産としてタイに接

收された。しかし戦時經濟の圓滑なる運行を期するためには、この機會に國內の金融機構を整備するとともに、その中樞機關としての中央銀行設立が、各方面から要望されてゐる。  
最近大蔵副大臣ワニット氏を總裁とするタイ・バンク(資本金一千万、パート)が新設されたが、之は別段かゝる機能を持つものではない。タイの經濟新情勢は一日も速かにかゝる金融中心機關の設立を要請してゐる。その實現も遠いものではないと思はれる。(朝日經谷特電による)

昨年上半年盤谷港輸出入貿易と前年比較

輸出入	一四二一年		一四三〇年	
	輸出	輸入	輸出	輸入
米	八、三〇、七〇銖	一、七〇、八〇銖	六、九三、九七銖	一、七〇、三〇銖
錫	二、三三、三〇銖	五、七六、六銖	三、八四、六〇三銖	五、七六、六銖
チーク	三、二六、九三銖	三、〇七、五九銖	三、〇七、五九銖	三、〇七、五九銖
其他	九、三六、三三銖	七、〇七、五九銖	九、三六、三三銖	七、〇七、五九銖

泰國の重要商品國別輸入高

(昭和十四年)―單位千バーツ

日 本	綿製品		金屬製品		鐵 油		機械類	
	香港	嘉坡	香港	嘉坡	香港	嘉坡	香港	嘉坡
計	一一、九四八	一一、三〇三	五二二	一、一八二	一、一八二	一、一八二	一、一八二	一、一八二
新 嘉 坡	二、二五八	一、一六三	六、九七一	九一三	九一三	九一三	九一三	九一三
英 印 那	七八八	九五六	四、一五六	一、〇一六	一、〇一六	一、〇一六	一、〇一六	一、〇一六
支 那	五六三	九五六	四、一五六	一、〇一六	一、〇一六	一、〇一六	一、〇一六	一、〇一六
英 國	九五六	九五六	四、一五六	一、〇一六	一、〇一六	一、〇一六	一、〇一六	一、〇一六
比 逸	一、八二三	一、八二三	一、八二三	一、八二三	一、八二三	一、八二三	一、八二三	一、八二三
獨 逸	一、八二三	一、八二三	一、八二三	一、八二三	一、八二三	一、八二三	一、八二三	一、八二三
蘭 印	一、八二三	一、八二三	一、八二三	一、八二三	一、八二三	一、八二三	一、八二三	一、八二三
米 國	一九、八一六	九、〇九三	九、七二九	六、二〇四	六、二〇四	六、二〇四	六、二〇四	六、二〇四

## 對タイ日本輸入受託者

南洋貿易調整令の對タイ國適用より南洋貿易會所屬の統制團體に於て輸入受託者を逐次決定、この程正式認可を見  
た。商品受託者名次の通り。

△胡麻子、蓖麻子、桐子	湯淺貿易、三井物産、河崎商店、櫻井商店、日商株式
△油用種子	日本棉花
△胡椒	加藤物産、三菱商事
△鹽	未定
△屑皮	大日本鹽業、三井物産、三菱商事、岩井商店
△獸骨、獸皮	日本膠原料輸入統制會社
△獸筋	(肥料用)岩井商品(膠原料)日本膠原料輸入會社(細工物) 理事長一任
△亞麻子油、椰子油、落花生油、桐油	日本膠原料輸入會社
△蜜蠟	三井、三菱、岩井、ヤマト産業、大倉商事、三興株式
△ホミカ、大風子、小豆、大香、小香、桂皮、安息香	坪野商店、出光商店、工藤商店
△セラツク	日本生薬統制株式會社
	武田舟松、三菱中外貿易

△松脂	吉地商店、加藤洋行
△其他の樹脂	申請の都度協議
△實綿	津田商店、三井物産、東洋棉拓
△綠綿	東洋棉花、津田商店(紡績用棉花輸入統制會社)
△黄麻(市皮、プロンボンを含む)	三井、三菱、日本棉花、大同貿易
△カボツク其他	理事長一任
△硅砂	なし
△雲母	理事長一任
△チタン	栃木化学工業會社
△コブラ	河崎商店、加商株式、櫻井商店、三井物産、三菱
△カサバルト	三井、三菱
△籐	高木商會、加商株式、小菅商店
△金剛砂、コランダ、ムザンドトリボ、其他	理事長一任
△研磨用礬物材料	三井
△チーク	範田商店、田村商會、三井、湯淺、木材、野澤組
△紫檀、黒檀	理事長一任
△木炭	三井物産



## タイ米輸出概況

(鑿谷タイムス紙、昭和十六年十一月二十二日)

税關報告書によれば、一九四一年八月に於けるパインコークからのタイ米輸出概数は一、八一六、四四〇ピクル、この金額・一四、三四六、四九六チカルである。前月七月の輸出概数は二、一〇九、二五一ピクル、七四五、八五七チカル、五月に於ける輸出概数一、〇六七、五二五ピクル、八七七、四四八チカルであつた。當期に於ける最大輸出概数は二月(一九四一年)に於ける二、三九四ピクル、一六、七二五、七五七チカルであつた。反對にこれが最小概数は、十月(一九四〇年)の一、四四七、七七一ピクル、〇七六、六六六チカルである。

八月の輸出概数中の五九・六〇%は日本へ、二二・六六%は香港及び支那へ、一七・〇八%はシンガポール及び英領マレーへ、〇・六四%は英領北ボルネオ及び蘭印へ輸出されたものである。

## タイ國正貨準備

(鑿谷タイムス紙、昭和十六年十一月二十二日)

ルアング・プラチット蔵相の官報發表によれば、一九四一年九月末現在タイ國內に於ける紙幣流通額は二六四、三三一、六八八チカルである。これは前月八月末に比して三、三七五、九六六チカル、一九四〇年同期に比して四〇、

五五五、九六六チカル、一九三九年同期に比して一〇一、〇九九、一九〇チカル、一九三八年同期に比して一一一、六九九、一九〇チカル、一九三七年同期に比して二二〇、八九九チカルの増加に當る。

右の流通額に對し、九月末現在の紙幣發行準備額は、二六四、九二一、八六〇チカル、これは前月八月末に比して三、三七四、三九三チカル、一九四〇年同期に比して四〇、五五七、五三八、一九三九年同期に比して一〇一、六七九、三三二チカル、一九三八年同期に比して九八、八五五、八二四チカル、一九三七年同期に比して一〇一、〇五六、三三二チカルの増加を示してゐる。而して此の發行準備額内譯は次の通りである。

金	地	金	九七、三五四、九六六
英貨公債償還期一年以上のもの			一三、五六五、二二五
其	他		二七、五〇〇、〇〇〇
現金(コール又は一週間以内の公債による)	英	貨	一一一、一七七、七五七
	金	貨	
右	小	計	二五九、五九七、九四八
パーツ金貨			一、一六九、八二五
政府保證貨幣			四、一四四、〇八七
合計發行準備金			二六四、九一一、八六〇

# タイ國關係雜誌記事

本協會調査部編

八〇

十一月(つき)

- 泰の民家様式 藤岡通夫
- アンコールワット論 植村鷹千代
- フオールコンとその妻(八) 郡司喜一
- タイ國及びカムボヂヤの紅土とその建築上の利用 ペンドウルトン
- 〃 〃
- 日本人の南方發展(三) 松尾元次
- 泰國の交通
- 泰の動向を語る座談會

十二月(つき)

- タイ國護謨事業の概況
- 泰國經濟の特質と其の資源 K・ランドン
- タイ國に於ける華僑(一)
- タイの協同組合運動
- 新秩序に邁進する泰 月(つき)
- 月(つき) —
- 泰國の佛教(A) 中島關爾
- 印度支那クメール王朝(一) ホール・ジウメ
- 爲替政策の根源的變更(圓中心の市場設定) 同會調査部
- 泰國經濟の歴史的考察 田中源次
- 泰首相の甥ソンバット 黒澤隆朝
- タイ國の樂器 K・ランドン
- タイ國に於ける華僑(完) 森田修
- 泰國の前途は洋々たり
- タイ國の通貨と金融

Alliance Pact Signed—Japan, and Thailand  
 Thailand—Old and New Dr. Lily Abegg, the XXth Century

Japan Times Weekly—vol. X No.1.  
 The Eigo Kankyu

八一

- 佛印泰國從軍記
- 泰國相の妻
- 南方紀行・タイ國
- タイ國の出版界現狀
- 泰の風物記
- 起ち上つた泰國
- 泰國と大東亞戰爭
- 驟起するタイ民族(南方諸國の民族運動)
- 大東亞戰爭と日タイ攻守同盟
- 大東亞戰爭と南方民族解放(タイ)
- 印度・ビルマ・泰の青年運動
- タイ史話フオールコンとその妻(十)
- 日タイ攻守同盟を作つた人々
- タイ華僑の經濟勢力
- タイ人の嗜好趣味風俗について
- タイ國の鐵道々路建設(佛曆二四八二年一〇月一三年一二月)

吉屋信子  
由利聖子  
澤田謙  
奥村鐵男  
井上三郎  
ヴァイラヨータ  
宮原武雄  
石川昌彦  
H・ラーミア  
郡司喜一  
陣中四郎  
同誌調査部

八二  
主 婦 之 友  
戰 線 文 庫  
令 女 界  
讀 書 人  
寫 真 文 化  
創 造  
東洋經濟新報(七日)  
經濟 知 識  
東 亞 解 放  
新 亞 細 亞  
東 亞 解 放  
經濟 市場  
貿易 精 報(三六)  
洋

- 泰國の佛教(B)
- 日タイ攻守同盟を周つて
- 南方農業問題
- 泰國に於ける産業の現狀と貿易の將來(上)
- 新興泰國經濟の相貌
- 戰時下食糧の安泰案(米)
- 南洋日本町の意義
- 歌劇ラーチャマヌー
- 南方の建築藝術
- タイ國文化雜感
- タイ國立圖書館を覗く
- 南方共榮圈留學生座談會
- 南方共榮圈に於けるホテル調べ(十二)
- 盤 谷 便 り
- 大東亞戰爭と日タイ攻守同盟の意義
- 地質狀態から見た泰國の鑛物資源
- タイ國バンコック貿易概況
- 泰國の風貌

中島關爾  
南陽洞人  
伊藤兆司  
山本晃司  
大岩 誠  
ルアン・ウイチャ  
ト・フツタカーン  
藤岡通夫  
我妻隆雄  
星田晋五

宮原武雄  
内田 紀

南洋栽培協會々報  
交 易  
滿 洲 經 濟  
エコノミスト(廿五日)  
科 學 文 化  
外交(五〇八・五一四)  
國 際 文 化  
觀 光  
經 濟 知 識  
國際經濟週報(廿八日)  
海 外 經 濟 事 情  
ホ ー ム グ ラ フ  
八三

### ○タイ國、米英に宣戰布告

タイ國政府は一月二十五日正午、米、英同盟に對して宣戰を布告し、午後一時國內外に向け放送した。宣戰布告文左の如し  
 アナンダ・マヒドーン泰國王の名において次の如く聲明す  
 米英兩國は泰國々境内にその軍隊を越境せしめ或ひは泰國の都市を擧撃するなど種々なる方法をもつて泰國に對し侵略的行爲を行ひ來つた。斯の如き行爲は國際法に違反すると同時に又人道に背馳するものである。それゆゑに泰國は泰國憲法第五十四條によつて米英兩國と一月廿五日正午より戰爭状態に入ることとなつた。泰國人民よ最後の勝利を戰ひ取るために全力をあげて政府と協力せよ、而して平時の如く平靜に各々の職分に邁進せよ、泰國在住の外國人及び非敵國國籍人よ泰國政府によつて與へられた友邦人たるの名に價するが如く行動せられよ。(一・二五、バーンコーク發同盟)

ウイチット軍備局長聲明 一月二十五日午後七時タイ國ウイチット宣傳局長から左の如きコムミニケを發表した。

英米兩國空軍は既に二回に亘りタイ國を空襲し、無辜の國民を攻撃した。正義、人道主義を稱へる英米兩國がかくの如きことをしたのは甚だもつて憤激に堪へず、よつてタイ國民の名譽保持と世界正義のためこゝに英米兩國に對し宣戰布告をしたもので、われわれは大東亞の盟主日本と協力、勝利の榮冠に向つて進撃する光榮を有する。(一・二五、バーンコーク發東日)

### ○在タイ帝國大使館聲明

在タイ帝國大使館發表  
 昨年十二月八日大東亞戰爭勃發するやタイ國は欣然皇軍のタイ國領通過を許容し、ついで同月二十一日に日タイ兩國間に攻守同盟の成立を見たり。同日より既にタイ國が英米の壓制に抗し敢然立つて大東亞開放の聖戰に積極的に参加すべきは單に時期の問題なりしところ本一月二十五日果然英米兩國に對して宣戰を布告し、帝國と相携へて挺身することを明かにせるは洵に欣快に堪へず、そもそも大東亞戰爭は民族開放の

### ○タイ軍ビルマ領へ進撃開始

タイ國政府は一月二十五日對米宣戰布告と同時にタイ・ビルマ國境において嚴然と國境警備についてみたタイ國數十萬の軍隊に一齊に進撃命令を下した。從來ビルマ軍の國境侵犯を防守撃攘するのみであつたタイ軍は、日・タイ共同作戰の妙を發揮して二十五日後俄然攻勢に轉じ、北部國境○○及び○○方面では既にビルマ領への積極的進撃が開始された。タイ軍の出動は英緬軍に相當深刻な打撃を與へるものである即ちわが精銳によつて天與の堅陣と自負したシャン山系の縱深陣地を突破された英國のビルマ防衛軍は今後日・タイ兩軍の緊密なる協力により猛攻撃をうけることになり、蔣軍の北部ビルマ進駐を許して北方からタイ國を牽制せんとした英軍の意圖はこゝに空しくなつた譯である。(一・二五、バーンコーク發同盟)

### ○セナ前駐日タイ國大使歸國

曩に本國に歸還を命ぜられた前駐日タイ國大使夫妻は一月十九日朝羽田發空路歸國の途に就かれた。

### ○デイレッツク大使信任狀捧呈

新任タイ國特命全權大使ナイ・デイレッツク・チャイヤナム氏

### ○タイ國宣戰と坪上大使

タイ國政府は一月二十五日米英兩國に對し宣戰を布告したが坪上大使は官邸に於て左の如く語つた。  
 タイ國は日タイ攻守同盟成立以來何時でも米英に對し宣戰布告の用意をもつてゐた、然るに昨夜の英國機首都空襲を機會に茲に宣戰を布告したものである。タイ國は宣戰布告に依り對米英戰を日本とともにやらなければならないといふ意義をはつきり闡明した。これはタイ國としては當然のことであるが、日タイ同盟が事實上にも法的にも米英を共通の敵とし、東亞から米英の勢力を一掃するといふ共通の目的を更に一層明確ならしめたものである、今後日タイ兩國は協力して大きな期待がかけられるが、今やシンガポール、ランダーンの運命が目撃の中に迫つてゐる時タイ國の對米英宣戰布告はもつとも意義深い。(一・二五、バーンコーク發同盟)



は信任状捧呈のため一月十九日午前十時半隨員七名を帶同し、宮中に參内十一時、天皇陛下に謁見仰付られ、謹んで信任状を捧呈陛下には優渥なる勅語並びに御握手を賜ひ、隨員七名にも謁見仰付られた、ついで同大使は隨員同伴、桐の間にて、皇后陛下に謁見仰付られ、光榮に感激して宮中を退出した。(一・二〇讀賣)

### ○軍票と南方諸地域通貨政策

南方諸地域に對する通貨政策に關しては、經濟工作の根幹をなすものとして注目されてゐるが、一月二十六日の衆議院日本銀行法案委員會において大藏省原口爲替局長は左の如き要旨の答辯を行つた。

南方諸地域に對する通貨政策としては、現在作戰地域に於ては現地通貨表示の軍票を使用して軍票と現地通貨を等價としてゐる、作戰地域以外に於ては從來あつた米弗或は磅との連繫を斷ち、またこれら第三國通貨の實勢力も衰へつゝあり、その結果我國と協力の態度に出で、目下協力方策について具體的に相談してをり、既に佛印のピアストルは從來米弗を通じて決済してゐたが、今日は圓と直接決済するやうになつてゐる。タイ國のバートに就ても同様である。圓との換算率を決定することは作戰中の關係から實際上必要少く、また經濟上も困難なので、差當り圓と南方諸地域の通貨との間に爲替

關係が起らないやうにする考へである。將來ある程度の經濟上の見通しがつた場合には換算率を決めるが、その場合米弗、磅或は金を仲介として決定する如き方法を採らず、圓と諸通貨との間に直接に換算率を決定するその場合基準となるのは諸地域の生産力、資源、民度等であるが、物價はそのうち最も大きな要素とならう、之等多くの要素を判斷して適當に決定する。(一・二七、中外商業)

### ○過剩南方米貯藏方針

一月二十八日の衆議院商工省所管法案委員會において世耕弘一氏(同交)の「南方物資と日本經濟界との關係」に關する質疑に對し井野農相並に岸商相より左の如き答辯があつた。

米穀はタイ、佛印で二千萬石、ビルマをふくめれば四、五千萬石の輸出餘力がある。これをマレーに二、三百萬石、支那に一千萬石を供給、印度へはビルマの輸出米をもつてすれば南方諸地域において一千萬石の餘剰を生ずる。併し日本としては飽くまで米穀自給政策をとつてゆくの、近き將來この目的は達成されるものと思ふ。隨つて南方地域の餘剰米は東亞共榮圈に於ける豫備貯藏として我が國が適當な場所に管理する方針で、この米に我が國は全く依存するつもりはない。(一・二九、讀賣)

### ○英機再び盤谷を空襲す

一月二十七日夜英機が再びバンコク市に襲撃したが、日タイ防空隊の猛撃に遭ひ逃走した。(一・二九、バンコク發同報)

### ○南方諸國輸移出米數量

一月二十九日の衆議院食糧管理委員會に對し園内主要米穀輸出國即ち佛印、タイ、ビルマ三國の仕向國別輸移出米穀數量を農林省から資料として提出した。これによれば昭和十四年三國總輸移出高は四千七百七十四萬九千七百九十五石で、うち我國及び滿洲國に對しては總計五十七萬二千三百二十石を供給してゐる。しかしその後の情勢の變化により現在においてはわ國がが處理し得べき米穀は、佛印、タイ兩國で約一千萬石になつてゐる。(一・三〇、東日)

### ○ビブン首相戦争目的と抱負を語る

大東亞戰の前線兵站基地としての重大なる任務を分擔せるタイ國首相ビブン元帥は二月二日午後二時半から約一時間に亘つてスワン・クラブ(首相官邸)において日本人記者團と會見、

對米英宣戰布告後における首相の決意を披瀝した。

問 宣戰布告に際しての閣下の決意は?

答 大東亞戰を出来るだけ早く日本の勝利に導くやう宣戰を布告した。即ち日タイ軍事同盟締結以來タイ國は東亞新秩序建設の協力を具體化するために參戰したのである。

問 今後の華僑對策は?

答 現在タイの華僑はよく日本軍と協力してゐてくれりてゐるので非常に嬉しく思つてゐる、ラングーンでも陥落すればタイ國近隣の華僑の考へ方もぐつと變つて面白くなるだらう。

問 暹日閣下は蔣介石に對して抗戰停止の勸告をされたが、今後も機會あれば續けられる積りか。

答 蔣介石をして日本の眞意を諒解せしめることが出来れば私は非常な名譽だと考へてゐる。蔣介石からは何ら返事が来ないが、いま文通の方法を考へてゐる。

問 經濟問題、特にインフレ對策如何。

答 インフレ對策に關しては日本側と相談しつゝ目下審議中である。今後三ヶ月内にタイ貿易の正常化が實現されれば問題なくなると思ふ。(一・三三、バンコク發東日)

### ○我が首相外相にタイ國勳章

攻守同盟の誓ひも固く東亞共榮圈確立を目指し堂々對米英戰の火蓋を切つたタイ國では、さきの日タイ攻守同盟締結の功勞

に報ひるため東條首相に同國最高勳章、東郷外相に同國白象一等勳章を贈ることになり、先づ外相に對し一月三十日午後三時外務省でディレックタ駐日タイ國大使から傳達した。(一・三一、中外商業)

### ○タイ戰時豫算二億餘銖可決

タイ國政府は對米英宣戰布告に伴ふ情勢に對處するため一月二十九日午後臨時議會を召集し、宣戰布告並に二億一千九百パートの戰時豫算を上程滿場一致で可決した。

(一・三一、パインコック發盟)

### ○タイ新金本位制を採用す

タイ國政府は二月一日附特別官報を以て新通貨爲替統制法を發表、從來の英磅爲替本位制を廢止し純金〇・三二六三九グラムを一パートとする新金本位制を採用、即日實施する旨發表した。タイ國は一月廿五日對米英宣戰布告を斷行、いま又經濟的に磅より完全離脱し長年に亘り英國より加へられた經濟的桎梏を積極的に排除するに至つた。通貨爲替統制法の要旨左の通り一、パートの對外價值を一磅に付十一パートと規定した從來の磅爲替本位制は廢止する。

一、純金〇・三二六三九グラムを以て法貨一パートとす。  
一、大藏大臣は通貨及び外國通貨の凡ゆる取引を統制、制限

禁止することを得。

右に對する日本側金融専門家の見解を綜合すれば左の如し。  
タイ通貨關係から觀て、パートの相場が高過ぎるので一部に於ては之をバーにしようとする向もあつたが、今回のタイ側の發表では純金〇・三二六三九グラムを一パートとしてあるから之と日本の一グラムの金買上げ價格三圓八十五錢から算出すれば百パート百廿五圓六十六錢となる。併し圓と金の關係は既に今日根本的に變化してゐるから斯る變化を考慮に入らずして一方的に決定したと思はれる。〇・三二六三九グラムから計算される日タイ新爲替相場をその儘日本が認めていゝかどうかは充分検討の必要があらう。(一・三三、パインコック發同盟)

### ○日タイ學生交換協定成立

タイ國文部省とわが國際學友會との間に日タイ學生交換協定が成立した旨在パインコック矢田部前公使(國際學友會專務理事)から二月三日情報局に報告があつた。同協定によれば、日タイ兩國は常に三名宛の學生を交換(月額一人二百八十圓又は二百八十パート支給)このほか日本側はタイ國學生男五名、女二名を毎年招致し數年滞在せしめる。又見學團としてタイ國教員十二名を招き(旅費、滞在費一切日本側負擔)日本側からは

學生十二名を派遣(船費のみ日本側負擔)する。(一・四朝日)

### ○日本厚生協會主催座談會

二月四日夜神田學士會館に於て厚生省内の日本厚生協會主催で「南方共榮圈と厚生運動」と題して座談會開催され、參加團體比律賓協會、日本ビルマ協會、南洋協會、國際學友會及び本協會等で本協會よりは大山囑託が出席した。

### ○タイ國留學生招待豆撒

二月三日の節分に日蓮宗堀の内妙法寺ではビボン・タイ國首相令甥ソンプット君以下タイ國留學生十名を招待して日タイ兩國武運長久祈願大追儂式を舉行。當日日蓮宗では困苦迫害と闘ひ立正安國を説く日蓮上人辻説法の圖(加納川郁之助氏畫)をビボン首相に大使館を通して贈呈した。(二・四、東日)

### ○講談社の新タイ國大使招待

二月五日朝大日本雄辯會講談社ではディレックタ新任タイ國大使並に館員一同を招待して同社の各種業務狀況を參觀せしめ右終つて盛大なる午餐會を催した。同社側の重役以下係員の町重なる接待に大使一行は大満足の様子であつた。尙陪賓として當協會よりも常務理事以下數名出席した。

### ○タイ佛印國境一部劃定

タイ佛印國境劃定は二月九日委員會第三回會議を開き、スツコンボト、スツンドントリ兩河口の決定確定を始め數件を決定、左の如き共同コミュニケを發した。

劃定委員會第三回會議は二月九日ダラットに於て矢野議長主催の下に開催され委員會は時局の變化にも拘らず劃定事業を遂行すべきこと及び、スツコンボト、スツンドントリ兩河口の決定を承認し又左の決議を滿場一致を以て可決の上閉會せり。

- 一、非武装地帯に關する
- (イ)監視するための規定及び
- (ロ)泰國政府の承認に付すべき規定
- 二、客年十月六日の決議を遂行し現地作業の促進を圖るための措置に關する件

(二・九、サイゴン發同盟)

### ○駐タイ大使館陸軍武官更迭

陸軍大佐田村浩氏は二月廿六日駐タイ大使館附陸軍武官を免ぜられ、後任として陸軍大佐守屋精爾氏が駐タイ大使館附陸軍武官を命ぜられた。因に守屋大佐は本協會會員であつて、曾て

少佐時代タイ國公使館附武官として活躍せられたるが、あり  
再度の勤務である。

### ○外務省 辭令

臺灣總督府事務官 櫻 井 憲 三  
任大使館三等書記官(六)泰國在動を命ず(一月廿七日)  
通信技師 長 谷 川 章  
任大使館三等書記官(五)泰國在動を命ず  
食糧管理局技師 表 聰 悟  
任大使館三等書記官(五)泰國在動を命ず(以上三月九日)  
領 事 油 橋 重 遠  
任大使館三等書記官(五等)  
蘇聯在動を命ず  
海軍少佐 小 芝 直 貞  
佛印、タイ國間國境劃定委員會における帝國補助委員被仰付  
海軍中佐 高 塚 忠 雄  
同 花 田 廣  
佛印、タイ國間國境劃定委員會における帝國補助委員被免(以  
上三月四日)

### ○タイ國政變と内閣改造

三月七日タイ國ビブン内閣内閣は總辭職したが、時を移さず

後繼内閣組織の命が前任者に下され、十日再びビブン首相の下  
に新内閣が組織された。これは事實上の内閣改造で、その動機  
として傳へられるのは、タイ國が米英に對して宣戰布告して以  
來、我國との提携は一層緊密化し、大東亞戰爭の目的完遂のた  
め内閣の一大刷新強化を必要とされたものであるといふ。新内  
閣の顔觸れは左の通り。

總理兼國防兼外務大臣 ビブン・ソククラーム  
大藏大臣(留任) ポリバン・ユタキツト  
經濟大臣 (前國防大臣)ラタナクン・ルエンリット  
厚生大臣 (前内務大臣)チャウエンサツク・ソククラーム  
農務大臣 (前經濟大臣)シン・コモンナウイン  
交通大臣 (留任)コアン・アパイオン  
内務大臣 (前國防副大臣)マンコーン・プロムヨーテイ  
司法大臣 (留任)タムロン・ナワサワット  
文部大臣 (文部副大臣)ブラエーン・モントリ  
カンベラ來電によれば、濠洲政府は三月二日午後三時以降  
濠洲はタイ國と戰爭状態にある旨十日發表した。(三・一〇、リ  
スボン發同盟)

### 濠洲・タイ國に宣戰布告

一月十五日

大 東 亞 戰 争  
レマ・イタ・マルビ 戰 誌  
一、陸軍航空部隊、第四次シンガポール  
空襲を敢行、軍  
事施設を爆破、  
テングー飛行場  
の敵爆撃機七機  
を銃撃破し、敵  
バツファロー戦  
闘機七機を撃墜  
一、陸軍航空部隊  
第五次シンガポ  
ール空襲を敢行  
敵バツファロー  
戦闘機八機を撃  
墜、センバワン  
テングー飛行場  
を爆破。  
一、陸軍部隊、マ  
ラッカを攻略。  
一月十六日  
一、陸軍部隊、パ  
トバハ港に奇襲上陸し  
同飛行場を占領。

一月十七日

一、陸軍航空部隊、シンガポールを猛爆  
英東亞軍司令部その他の軍事施設を爆  
碎、テングー飛行場に於て十一機を撃  
破、更にセラター飛行場において大型  
飛行艇四機を炎上、一機を大破。  
一、海軍航空部隊、シンガポールを猛爆  
テングー飛行場に於て敵バツファロー  
戦闘機十機を撃墜、ブレンハイム戦  
闘機七機、ロツクヒード爆撃機一機を  
銃撃破し、更に一部隊はセンバワン飛  
行場を急襲、敵大型機數機と格納庫一  
棟を爆破炎上、一機を撃墜。  
一月十八日  
一、陸軍航空部隊、シンガポールを猛爆  
軍事諸施設を爆破、敵バツファロー戦  
闘機十一機を撃墜。  
一、陸軍航空部隊、マラッカ附近其他に  
おいて敵機四機を撃墜す。  
一月十九日  
一、陸軍部隊、カウメイダン附近の敵六  
百を潰滅、更にビルマ要衝タダウイを  
完全占領す。

一月二十日

一、陸軍航空部隊、シンガポールを空襲  
軍事、政治中樞部、セラター飛行場組  
立工場七ヶ所を爆破、敵戦闘機ホーカ  
ー・ハリケン七機を撃墜。  
一、陸軍部隊、エンダウを完全占領。  
一、陸軍部隊、バクラー及びパレットスロ  
ン附近において敵獨立第四十五旅團を  
全滅せしむ。  
一月二十一日  
一、陸軍航空部隊、シンガポールを空襲  
市街中樞部、テングー飛行場其他を猛  
爆、敵戦闘機六機撃墜。  
一、海軍航空部隊、シンガポールを空襲  
敵船一隻を爆沈。一隻を大破、更にテ  
ングー飛行場を爆破。敵機十一機を爆  
破、一機を撃墜。  
一月二十二日  
一、海軍航空部隊、シンガポールを空襲  
二十八機を撃破、十八機を撃墜、特務  
艦一隻を爆沈。  
一月二十三日  
一、陸軍航空部隊、ラングーン上空にお

- 一、敵戦闘機七機を撃墜、またミンガラドン飛行場上空において敵戦闘機十五機を撃墜。
- 一、陸軍航空部隊、セレター飛行場の組立工場を猛爆、敵戦闘機十一機を撃墜
- 一月二十四日
- 一、陸軍部隊、ジョホール州ヨンベンを完全占領。
- 一月二十六日
- 一、陸軍航空部隊、マレー東岸エンダウ附近において敵の大編隊と空中戦を展開し、敵機三十九機を撃墜。
- 一、陸軍航空部隊、ラングーンを空襲、敵戦闘機十機を撃墜。
- 一月二十七日
- 一、帝國驅逐艦二隻、マレー東岸エンダウ沖において英驅逐艦二隻と交戦、一隻を撃沈、一隻を逃走せしむ。
- 一月三十一日
- 一、陸軍部隊、ジョホール・パール占領。
- 一、陸軍航空部隊、シンガポールのセレター飛行場を猛爆、敵戦闘機十三機を撃墜。
- 一、陸軍部隊、ビルマのモールメンを完全占領。
- 二月四日
- 一、陸軍部隊、ビルマのバアンを占領。
- 二月六日
- 一、陸軍航空部隊、四回に亘りミンガラドン飛行場を爆撃、敵機十二機撃墜。
- 二月九日
- 一、陸軍部隊、午前零時十六分、ジョホール水道を敵前渡過、抵抗する敵を撃破し、午後七時テンガー飛行場を完全占領。
- 二月十日
- 一、陸軍部隊、ビルマ要衝マルタバンを完全占領。
- 二月十一日
- 一、陸軍部隊、午前八時シンガポール市街に突入。
- 二月十二日
- 一、陸軍航空部隊、シンガポール要塞大規模に協力すると共に、退避準備中の敵艦船群を襲撃、一萬トン級一隻を撃沈、他に多数命中弾を與ふ。
- 二月十四日
- 一、海軍部隊、シンガポール、セレター軍港を占領。
- 二月十五日
- 一、陸軍部隊、午後七時五十分、シンガポール島要塞の敵軍をして無條件降伏せしむ。
- 二月十七日
- 一、シンガポール島(港)を昭南島(港)と改稱の旨大本營より發表さる。
- 二月二十四日
- 一、マレー軍政機關決定し、昭南市長に大達茂雄氏任ぜらる。
- 二月二十五日
- 一、陸軍航空部隊、マンダレー、ミンガラドン飛行場を空襲、卅四機撃墜破。
- 三月二日
- 一、陸軍部隊、ビルマ・シッタタン河を敵前渡河し、ラングーンに迫る。
- 三月七日
- 一、陸軍部隊、ビルマ・ベグーを占領。
- 三月八日
- 一、陸軍部隊、ラングーンを完全占領す

協會記事

○秩父宮殿下メツセージ

日タイ兩國の友好日に敦厚を加へ經濟的文化的提携倍々強化せられ單に兩國の國力増進に等與しつゝあるのみならず東亞の安全に貢獻する處大なるものあるは日タイ兩國の親善増進を奇命とせざる在東京日本タイ協會總裁たる余の貴名譽總裁殿と共に衷心より慶賀する所なり。

今回日本タイ協會理事長矢田部保吉貴國に赴くに際し茲に貴國の御隆旨と貴總裁殿下の御靖安とを祝福す。

As the Patron of the Japan Thai Society in Tokio which is devoted to the fostering of friendly relations between Japan and Thailand, I wish to share with Your Royal Highness, Patron of the Japan Thai Association in Bangkok, the deep sense of felicitation upon the rapid growth of cordial relations between our two countries and their economic and cultural co-operation that has markedly been strengthened in recent years contributing not only to the advancement

of the national welfare of our two nations but also to the enhancement of general stabilization of East Asia. I take much pleasure in taking advantage at the visit to Bangkok of Mr. Yasukiti Yatabe, Chairman of the Board of Directors of the Japan Thai Society, to convey my best wishes to Your Royal Highness and pray for the continued prosperity and welfare of your esteemed country.

○アーテイト殿下御返文

As the Patron of the Japan Thai Association in Bangkok, which has its true aim in developing the friendly relations towards Japan and Thailand, I readily concurred with your Imperial Highness the fact that the rapid growth of cordial relations between our two countries and their economic and cultural co-operation that has markedly been strengthened in recent years contributing not only two nations but also to the enhancement of general stabilization of the



regions of East Asia

I therefore take this opportunity to convey to your Imperial Highness, through the kind offices of Mr. Yasukiti Yatabe, chairman of the Board of Directors of the Japan Thai society, my cordial wishes and pray for the continued success, prosperity and welfare of your country.

日タイ兩國の友好日に敦厚を加へ經濟的文化的提携益々強化せられ單に兩國の國力増進に寄與しつゝあるのみならず東亞の安定に貢獻する處大なるものあるは日タイ兩國の親善増進を使命とせる在盤谷日本タイ協會名譽總裁たる余の貴總裁殿下と共に正に御同慶に堪えざる處なり。

今回日本タイ協會理事長矢田部保吉氏御來朝に際し託して以て貴國並びに貴殿下の御隆昌と御靖安とを祝福す。

### ○デイレック大使歓迎並に 日タイ攻守同盟祝賀晚餐會

先に締結せられたる日タイ攻守同盟に基き兩國の軍事的協力益々強化せられ、文化的經濟的提携と相俟つて大東亞建設に貢獻する所大なるを見る時、デイレック新駐日大使を迎へたるは誠に意義深く、昭和十七年一月二十三日、日本タイ協會主催にて同大使歓迎並びに日タイ攻守同盟締結祝賀の爲、華族會館に

於て晚餐會を開催した。

#### 晚餐會順序

- 一、晚餐開始
- 二、天皇陛下の聖壽を壽ぎ奉りて乾盃 (デイレック大使)
- 三、タイ國々王殿下の康徳を祝し奉りて乾盃 (徳川副會長)
- 四、日本タイ協會總裁秩父宮殿下の爲乾盃 (出淵閣下)
- 五、徳川副會長挨拶
- 六、デイレック大使挨拶
- 七、外務大臣祝詞 (西外務次官)

#### 徳川副會長挨拶

閣下並に各位  
今夕の會合を主催致しました日本タイ協會を代表致しまして近衛會長に代り一言御挨拶を申述べますことは私の頗る光榮と存する所であります。

今日は新任タイ國大使デイレック・チャヤナム閣下に對し歓迎の意を表する爲め並に日タイ攻守同盟の成立を祝賀致します爲めに此の會合を設けた次第であります。閣下並に各位に於かれましては本會合の主旨に御賛同下さいまして極寒且つ御多用の折柄にも關はず斯く多數御來會下さいました事は主催

者側の頗る欣快に存する所でありまして茲に厚く御禮申し上げます。

去る十二月八日宣戰の大詔を拜して以采我が軍の向ふ所敵なく到る處に赫々たる戰果を收めつゝありますことは全く廣大無邊なる御威威と陸海軍の不斷の練磨とに因るものでありまして唯々恐懼感激に堪えませぬ。私は茲に此の雄大なる作戰を實施せられ又前線に在つて勇猛果敢なる戰闘に従事して居らるゝ陸海軍將士に對して皆様と共に謹んで感謝の至情を表し又不幸戰没せられました護國の英靈に對し深厚なる弔意を表するものであります。

大東亞戰爭の開始に當りまして私共の頗る心配致しましたことは日本とタイ國との關係でありました。御承知の通り日タイ兩國の友好關係は兩國當路の御努力に依りまして近年著るしく増進せられ殊に東亞の安定のため日タイ兩國が共に携へて責任を取らねばならぬことに付きましては兩國有識者の間に一脈の共通なる信念が出来上つて居つたと信じます。従つて日タイ兩國の關係は英米其他の惡辣なる離間策に禍ひせらるゝものではない事は私共の窺かに確信して居つた所であります。然し乍ら愈々開戦となりまして此の兩國の提携が如何なる形態を取つて實現せらるゝかに付きましては誰しも重大關心を持ち憂慮致した事は寧ろ當然であつたと存じます。然るに宣戰の大詔を拜しすると共に即日、日タイ軍事協力的手段が講ぜられ越えて十一

日には攻守同盟設定の合意が成立致しまして廿一日盤谷のワット・プラ・ケオ寺院に於て嚴かに同盟協約の調印式が行はれたのであります。

此の極めてなだらかにして且つ迅速なる経過を見ました事は日タイ兩國民の均しく慶賀措く能はざる所であります。殊に昭和三年以來過去十五年に亘つて日タイ親善の爲めに努力して参りました本協會と致しましては最も欣快と致す所であります。私は茲に日本タイ協會を代表して皆様と共に衷心祝賀の意を表しますると共に其の事に當られました日タイ兩國政府當局に對して敬意と感激の誠を披歴致す次第であります。尙タイ國がその國運の前途を左右すべき一大時局に當つて、決然日本と同盟を結び時を移さず協同作戰の方針を決定せられましたことは昭和七年のタイ國立憲革命前後より同國內に澎湃として隆興しつゝあります自由タイ國建設の意氣と之に伴ふ東亞的自覺の精神とに基くものと信じます。其の間に於けるヒーン首相並に同首相を首班とする内閣々僚各位の非凡なる決斷と識見とに對し衷心の敬意を表せんとするものであります。

今回我々の御迎へ致しましたデイレック大使閣下は御來任の直前まで數年間外務副大臣或ひは外務大臣としてタイ國の外交を御擔當になりました。従つて近年に於ける日タイ友好關係の増進に就いては直接その衝に當られ又今次大東亞戰爭の開始直前及び直後の日タイ關係に就いても外務大臣或ひは外務副大臣

としてビブリン首相と共にその重大責任をとられた次第であります。同大使閣下はタイ國に於て法學を學ばれ早く官界に投じ立憲革命に際しては有力なる人民黨員としてビヤ・パホン閣下その他の同志と苦樂を共にせられ新興タイ國の建設に活躍せられたお方と承ります。今や日タイ兩國が同盟國として相携へて新東亞の建設に邁進し以て世界の變局に對處せんとする此の重大時局に際し、新興タイ國の指導者の一人として一面に於て果斷なる實行家であると同時に他面タイ國文化の研究その他に關し御諳諳深き思想家であられる閣下の如き有力者を友邦の代表者としてお迎へ致しすることは私共の最も欣幸とする所であります。私は茲に閣下に對し私共の熱誠なる歡迎の意を表すると共に戰時下色々の御不便はありませうが閣下並に閣下と共に御來任になりましたタウイ・タウエチン參事官その他館員各位に於かれまして出來得る限り心地よき御生活を日本に於て發見せられむ事をお祈り申上げます。尙日本タイ協會は慣例によりまして閣下を名譽會長に御推舉申上げました處御快諾を頂まして誠に仕合せに存じます。本會の使命愈々重大を加へました此の際私共は閣下より御惜しみなく御鞭撻と御指導を仰ぎ本會の活動をして今後益々有意義なることを得ます様致したいと存する次第であります。

終りに臨み茲に杯を舉げて、閣下並に各位の御健勝を祝します。

### ディレック大使挨拶

閣下並に各位

本夕は小官の爲めに、茲に丁重なる晩餐會を催し下さいましたことを光榮に存じますと共に、種々御高説を拜聴致しまして誠に感謝に堪えません。

只今の徳川閣下の御言葉通り、日本帝國陸海軍の向ふ所敵なく到る處に赫々たる戰果を擧げられつゝあります事は誠に慶賀の至りと存じます。日本皇軍將士の果敢、耐忍、犠牲はタイ國に於て皇軍將士の方々と會見致しまして感歎致した次第であります。小官は日本皇軍の勝利によつて亞細亞人の亞細亞としての自由と光榮を有する日の近き事を信ずるものであります。

昨年十二月二十一日、ビブリン首相の下に日タイ兩國間に攻守同盟が締結せられてより、兩國の親善關係は益々緊密の度を加へつゝあることは、兩國の爲に誠に慶賀に堪えません。今や兩國の軍隊は、互に連絡をとつて愈々緊密を計つて居ります。徳川閣下のお言葉通り、日タイ友好關係は今に始まつたことではなく、三百年前より結ばれてゐたのであつて、其の因縁は深いものであります。

日本皇軍の勝利は、タイ國の勝利と同一のものとタイ國民一般は考へて居ります。現に日タイ兩國の協力關係は、益々緊密を加へて來つゝあるのであります。マレー戰線、或ひはビルマ方面に於て、大東亞新秩序建設の爲に、日本軍隊とタイ國軍隊

とが互に手を握り、共に協力して戰つて居ります。

御承知の通り、日本タイ協會は、日タイ兩國を最もよく互に理解する爲に凡ゆる努力を拂はれつゝあることに對し、小官は衷心より喜ばしく存じますと共に、タイ國人も日本の方々と同じ考へと希望を持つて居ります。何故ならば、大東亞共榮圏の建設が成功するか否かは、日タイ兩國の友好關係に懸つて居ると同時に、タイ國は他の眞面目な人々を忘れません。今タイ國は印度、ビルマ獨立運動の基地となつて、タイ國政府は便宜と援助を與へて居ります。夫々眞面目な人々の協力によつて、我々との共同の目的は晩かれ早かれ遂げられるのであります。

色々状態が變化しましたのにも拘らず、日タイ兩國の友好關係は今日一層親密の度を加へつゝあることに對し、小官は一層悦ばしく存じて居ります。我々は今後色々なる困難に出遭つても、我々の目的たる共榮の實現に近付きつゝあることを信じて疑はないものであります。

日本タイ協會は小官を名譽會長に御推舉下さいましたが、小官は日本タイ協會に對して、微力ながら協力することを光榮に存するものであります。小官はタイ國に於きましても、日本タイ協會の名譽會長として、及ばずながら御盡し致して参りました。

小官が今回駐日大使に任命されましたことは、今後日タイ兩國の爲に益々友好親善の度を高め、東亞共榮圏の理想の下に盡

力すべき運命を持つて居ると確信致して居りますから、將來とも閣下並に各位の御援助と御指導を御願申上げます。

終りに臨み茲に杯を舉げて、日タイ兩國の親善を御祝ひ申上げると共に、閣下並に各位の御健勝を御祝ひ申上げます。

### 外務大臣祝詞（西外務次官）

日本タイ協會が本夕新任タイ國大使ディレック閣下に對する歡迎並に舊臘締結せられた日タイ同盟條約祝賀の爲の晩餐會を催さるゝに當りまして茲に祝辭を申述べますことは私の欣幸とする所であります。

新任大使は多年タイ國に於かれまして國家の權機に參與せられ、最近タイ國外務大臣の要職に在られたのであります。が殊に過般日タイ間に成立した帝國軍隊のタイ領域通過に關する協定、及び日タイ同盟條約の締結に際しましては或ひは直接の當事者として或はビブリン首相を補佐して之が折衝に當られました之等の重要外交案件が極めて迅速に圓滿なる要結に到達しましたことは同大使の御盡力に負ふ所からざる次第でありまして私の深く敬服する所であります。

今後日タイ兩國間の關係は益々緊密を加へ、共同目的達成のため全面的協調を要する際、練達堪能のディレック閣下を駐日大使として迎へましたことは私共の深き喜びとする所でありました。

次に昨年十二月大東亞戰爭勃發直後成立を見ましたる劃期的

の日タイ同盟條約締結以來茲に一ヶ月を經過しましたが兩國の友好親善關係は愈々緊密を加へ、今や日タイ兩國は一體となつて大東亞解放の戰に邁進しつゝあるものでありまして本條約の目的とする處は着々實現せられつゝあるものと云ふべく誠に慶祝に堪えざる所であります。

我々は今後一層不撓不屈の精神を發揮し以て東亞の興隆と正義に基く世界平和の實現に向つて兩國の提携協力を益々鞏固に致したいと考ふるものであります。

#### 當日出席者芳名(敬稱略、順位不同)

ディレック・チャヤナーム大使閣下 チャラオ・スミタウエ  
ツチ書記官 ヴィラヨーター陸軍武官 今村信次郎 花柳徳兵衛  
ソンプーン・ユタヴィチャ海軍武官 石橋恒喜 西外務次官  
タウイ・タウエチクン參事官 市橋俊夫 二宮新 ラタナ・  
タイプ書記官 磯部美知 田中齊 タナット・ゴーマン書記官  
林久治郎 圓波恒夫 コンシイ・スッパモン書記官 萩野  
伊八 谷清訓 高橋五郎 關屋貞三郎 野村秀雄 郷隆三郎  
塚本外務省南洋局長 鈴木外務書記官 野澤源次郎 江口治  
土屋理事官 本田文部省學藝課長 山岡萬之助 大倉喜七郎男  
辻富三 堀義貴 倉田猛郎 渡邊壽郎 中村勇 星田晋五 郡  
司喜一 加藤泰通子 南部勇 渡名喜海軍中佐 來馬孫道 柏  
木秀茂 中川省吾 友田外務大臣秘書官 山本顯彌太 神野亮  
二 向井忠晴 東光外務書記官 福光外次郎 香春敏夫 宮崎

九八

申郎 中堂海軍大佐 小杉隆 甲斐外務事務官 日笠陸軍中佐  
岡部長景子 兒島宋吉 吉田晴風 出淵勝次 湯淺光行 芦澤  
進 三島通陽子 櫻井兵五郎 三島良三 齊藤武夫 水野外務  
省通商局長 佐藤市郎 佐藤敏入 佐々木昔山 北島多一 木  
内外務書記官(協會側)川村常務理事 遠山主事 木下乙市  
(主人)副會長 徳川頼貞侯

#### ○名譽會長の更迭

本協會名譽會長前駐日タイ國大使ビヤ・シー・セナ閣下は今般本國に歸還せられ、新にディレック・チャイヤナーム閣下駐日大使として御來任に付、寄附行爲第十九條に基き同大使を名譽會長に推舉し、就任方御承諾を得た。

#### ○セナ前泰國大使閣下送別宴

先般本國に歸還された、前駐日タイ國大使ビヤ・シー・セナ閣下夫妻のため、本協會役員幹事は一月十七日午後六時より星ヶ岡茶寮にその惜別宴を催したが、役員側夫人の出席もあり頗る家庭的で、情味の籠つた送別會であつた。

#### ○石井參事官の歓迎午餐會

本協會では、一月下旬御用歸朝中の石井駐日タイ大使館參事官

を、二月十六日正午華族會館に招待して歓迎小宴を催し、本協會役員出席の上同參事官から最近のタイ國事情に就き有益なる御話を伺ふを得た。

#### ○矢田部理事長の歸朝

昨年十一月中旬盤谷に赴かれた本協會矢田部理事長は、二月二十六日空路歸京せられた。因に同行の山口囑託は先發として西貢より別れて一足先に二月五日羽田着、歸京された。

#### ○タイ國專賣局長官一行招宴

タイ國專賣局長官チャロー・シー・サラコーン氏は同煙草部長サゴアン・トラックス氏外隨員一名帯同、二月十一日入京せられた。依て本協會役員は二月二十七日正午華族會館に於て歓迎午餐會を催し交馳を遂げた。陪賓としてディレック大使も出席された。

因に同專賣局長官並に煙草部長は、曩に昭和九年中觀光團の一員として來邦せられた事あり、大いに舊情を温めた次第である。

#### ○情報局補助金第四回分下付

昭和十六年度情報局より下付の補助金第四回分金參千參百七

拾五圓は一月三十日受領した。

#### ○拓務省補助金下付

豫て拓務省に對し下付方申請中の昭和十六年度補助金參百圓也は三月九日受領した。

#### ○臺灣總督府補助金下付の件

豫て臺灣總督府に對し昭和十六年度補助金下付方申請中の處本年度は特に最近に於ける日タイ關係の重要性に鑑み例年の倍額を補助する旨通告に接した。

#### ○タイ語講習會開催

本協會は日本出版文化協會並に日本印刷文化協會と共同主催にて情報局後援の下に執務上必要なるタイ語の初歩を主として技術員に教授する目的を以て、本協會囑託大山周三氏を講師に一ヶ月の豫定を以て二月初旬開講し、豫定を變更して會期を一ヶ月延期三月末日を以て終講の筈である。

#### ○會報の發行回数増加

從來本協會會報の發行回数は年四回(二、五、八、十一月)であつたが、時局下日タイ關係の緊密化に鑑み本年一月よりこ

九九

れを六回(一、三、五、七、九、十一月)に増刊、當局の許可を得てこれを實施した。

### ○泰國留學生を大相撲に招待

二月五日國技館に於て開催された愛國獻納會主催の大相撲に當協會では在京タイ國留學生中希望者約二十餘名を招待し、打出し後仕度部屋で學生一同双葉山、羽黒山等と共に記念撮影をなした。

### ○會員の異動

前號掲載後の異動は左の通りである。

新入會員 十四名

- 特別會員 二宮新氏(東京)淺野物産株式會社副社長―代表者
- 維持會員 山本顯彌太氏(大阪)山本顯彌太商店代表者
- 通常會員 奥村鐵男氏(東京)駐日タイ國大使館員
- 同 谷清訓氏(東京)三菱商事株式會社社員
- 同 田村駒商店貿易部(大阪)直輸入商
- 同 山田中(神戸)鐘紡營業部海外經濟調査課長
- 同 三島良三氏(東京)松竹株式會社常務取締役
- 同 宮崎彦一郎氏(神戸)織維製品輸出振興會社取締役
- 同 首藤謙次氏(東京)會社員

△大河内正敏氏(通常會員)は翼賛政治體制確立協議會代表出席者に決定さる。

△兄玉謙次氏(通常會員)は貿易振興協會々長に就任尙ほ大東亞審議會委員に就任さる。

△阿部信行氏(通常會員)は翼賛政治體制確立協議會代表出席者に決定さる。

△斯波孝四郎氏(通常會員)は大東亞審議會委員に就任さる。

△中尾七郎氏(通常會員)は本協會囑託山口武氏へ戦地より次の如き便りを寄せられた。

拜啓 すつかり御無音にて申譯もありません。微用令にて突然當地に参りましたが先年來語學の研究で種々と便宜を得て居ります。今後とも一層語學の習練につとめて○國との親善工作に半生を捧げたい決心であります。今後とも何分の御後援、御指導を賜りたく御願ひ申し上げます。一寸左肩、左腕に負傷して療養しましたが最近快方に向つております。乍他事御休心下さい。余は後便にて辱知皆様へよろしく。 敬具

一月十六日

第二〇九野戰郵便局氣付

南方派遣林第一六一一部隊(フ)

中尾七郎

100

鈴木政治郎氏(東京)防水布製造販賣業

郡司喜一氏(東京)元總領事

同 五斗欽吾氏(東京)醫學博士

同 山本鐘治氏(片瀨町)會社員

同 岩倉具榮公(東京)貴族院議員

### ○會員の消息

△酒井忠正伯(理事)は翼賛政治體制確立協議會代表出席者に決定さる。

△藤山愛一郎氏(監事)は二月六日海軍々政顧問、其の他國策研究會常任委員、大東亞審議會委員等に就任さる。

△細川謹立侯(評議員)は二月十三日大東亞審議會委員に就任さる。

△佐藤市郎海軍中將(評議員)は一月二十日科學動員協會常務理事に就任さる。

△村田省藏氏(名譽會員)は一月三十日陸軍々政顧問に就任さる。

△有田八郎氏(名譽會員)は二月十三日大東亞審議會委員に就任、尙ほ國策研究會委員にも就任さる。

△津田信吾氏(維持會員)は大東亞審議會委員に就任さる。

△大谷登氏(通常會員)は大東亞審議會委員に就任さる。

△大河内正敏氏(通常會員)大東亞審議會委員に就任さる。

### ○寄贈圖書

左記の如く各々寄贈を受け厚く感謝致します。

#### 單行書籍

△泰、ビルマ、印度(東恩納寛博著)

一部 大日本雄辯會講談社

△東亞經濟要覽(昭和十七年) 一部 東亞經濟懇談會調查部

△泰國の産業貿易事情(調査彙報第七輯、昭和十七年一月) 一部 日本貿易振興協會

#### 雜誌、小冊子

△泰國に於ける本邦商品の現況(調査第十一號) 一部 貿易組合中央會

△戦争の責任はルーズヴェルトに在り(ヒットラー獨總統獅子吼) 一部 大民社

△支那の通貨問題とその實情、一九四〇年度の支那外國貿易の概観、支那に於ける米國商品の分布(資料第三輯) 一部 日本貿易振興協會

△日本民族と南方移民(財團法人、人口問題研究會發行、人口問題資料第四十三輯抜刷) 一部 九大、伊藤光司

△南方農業問題(九大農學部農政經濟研究資料第四十一卷、農業と經濟八卷九號所載別刷) 一部 同

△農業上より見たるブラジル 一部 同

△食肉配給統制規則解説 一部 中央物價統制協力會議

△最近の比律

101



實(中屋健次氏述) 一部 比律實協會 △泰國關稅定率法(一九四〇年一〇月四日) 資料第二輯 一部 日本貿易振興協會 △泰を語る(資料第一輯) 一部 同 △支那事變前に於ける滿支食糧統計 一部 東亞經濟懇談會 △現下の食糧問題 一部 同 △人絹織物規格の解説(小絹織物及帶) 織協企畫部事務資料第十二號 一部 織維需給調整協議會 △支那國共政治思想史觀(調查資料) 一部 東洋協會調查部 △事業報告(昭和十六年十二月) 一部 青年文化協會 △黃麻の研究(附、佛印に於ける黃麻) 南洋資料第九號 一部 南洋經濟研究所 △企業許可令解説 一部 中央物價統制協力會議 △ピルマ佛教徒と慣習法 一部 滿鐵東亞經濟調查局 △泰語寫真帖 五〇部 國際觀光局 △泰語寫真帖 一部 在橫濱泰國領事館 △新世界經濟年報(赤松要編) 商工行政社 一部 日本貿易研究會 △蘭印に於けるラミーの栽培(南洋資料第一四號) 一部 南洋經濟研究所 △泰國及佛領印度支那の電氣事業(電氣事業資料八〇號) 二部 電氣協會 △華僑調查彙報(第一輯) 滿鐵調查部 △南洋邦人農企業現況一覽(海外拓殖事業調查資料第四五輯) 一部 拓務省拓南局 △泰を語る(資料叢書第五〇) 一部 府立東京商工獎勵館 △印度支那地圖 三部 東亞研究所 △印度支那地圖地名索引(資料J三三號ノ二C) 一部 同 △Eastern Asia No. 6 一部 インチュリヤ・テイ

リ・ニユズ東京支社 △新亞細亞(四卷二號) 滿鐵東亞經濟調查局 △研究資料(五年一、二號) 南洋經濟研究所 △南洋(二八卷二號) 南洋協會 △南進(七卷二號) 南進社 △太平洋(五卷二三號) 太平洋協會 △國際評論(七卷二號) 國際日本協會 △南方情勢(六四、六五號) 南方情勢社 △貿易組合(五卷一、二、三、四號) 貿易組合中央會 △回教團(六卷一、二號) 回教團研究所 △比律實情報(五五號) 比律實協會 △支那(三三卷二號) 東亞同文會 △國際月報(三三號) 情報局第三部第三課 △興亞(三卷二號) 大日本與亞同盟 △地學雜誌(五四年一、二月) 東京地學協會 △南洋栽培協會(報) 六卷二號 南洋栽培協會 △東亞經濟月報(七卷三、三號) 山崎經濟研究所 △臺灣金融經濟月報(一、四六號) 臺灣銀行調查課 △交易(三三三、三三四號) 橫濱貿易協會 △織維需給調整協會(報) 三卷一、二、三號) 織維需給調整協會 △物價協力時報(三年一、二號) 中央物價統制協力會議 △經濟彙刊(二卷三三號) 華興商業銀行 △文化日本(六卷二號) 日本文化中央聯盟 △國際文化(一八號) 國際文化振興會 △海(二卷二號) 大阪商船株式會社 △觀光(二卷一、二號) 日本觀光聯盟 △海外之日本(一六卷二號) 海外之日本社 △小村侯記念圖書館報(一五號) 小村侯記念圖書館 △有終(二九卷二、三號) 海軍有終會 △新若人(二卷一、二號) 歐文社 △支那研究(六一號) 東亞同文書院 支那研究所 △高雄經濟情報(四卷三期) 高雄州商工獎勵館 高雄商工會議所 △國

際事情(九、二〇號) 情報局 △公論(五卷一號) 第一公論社 △國際經濟研究(二卷六號) 國際經濟調查所 △東京商工獎勵(九一〇號) 府立東京商工獎勵館 △海を越えて(五卷一、二號) 日本拓殖協會 △東亞文化園(一巻) 號) 東亞文化園社 △貿易情報(三四、三五、三六號) 府立東京商工獎勵館 △This Week in Bangkok-Bureau of Tourist Promotion, Thailand Vol. 4 No. 46, 47 橫濱タイ國領事館 △Japan Times Weekly and Trans-Pacific Vol. X No. 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8, 9 ナン・タイムズ社 △The Pole Star monthly Vol. XII No. 2 フリッツペン・ジヤン社

○購入圖書

△朝日東亞年報(昭和十三一十六年版) 一部 朝日新聞社中央調査會  
 △南方諸國の資源と産業(賀川英夫) 一部 ダイヤモン社  
 △毎日年鑑(昭和十七年度) 一部 大母・東日新聞社  
 △南洋案内 一部 南洋協會  
 △タイ國(南進叢書四) 一部 南進社  
 △泰國・佛印と日本人(福中文次) 一部 婦女界社  
 △コンタイ・ムアンタイ(泰國の人と土) 澤田謙) 一部 婦女界社

△白象(田澤丈夫) 一部 愛國新聞社  
 △タイ國統計要覽(タイ室東京事務局) 一部 元書房  
 △泰國の民族 一部 タイ室東京事務局  
 △泰國農民と華僑—暹羅農村經濟調査を中心として) 一部 東亞研究所  
 △暹羅國視察報告(鳥居信平) 一部 臺灣製糖株式會社  
 △英領馬來事情 一部 南洋協會臺灣支部  
 △東方策第一編、第二編、結論(稻垣滿次郎) 各一部 哲學書院  
 △永平府志(元、享、利貞) 全二五卷 古藝季  
 △The Bangkok Times Weekly Vol. XLV No. 48 Bangkok Times Press  
 △The Record-the Reportment of Commerce 一部 Ministry of Economic Affairs  
 △Bangkok ; Siam 一部 Royal State Railways of Siam

編輯後記

舊臘八日米英に對する宣戰布告の大詔が漢發せられてより三ヶ月、皇軍の雄渾精銳なる作戦は、早くも曠古の大戦果となつて全世界を驚嘆せしめた。香港、マニラ、新嘉坡の敵據點は相次いで陥落し更に赫々たる戦果は全蘭印及びビルマの首都ラングーンに及んだ。

この間、タイ國もまた敢然立つて米英に宣戰を布告し、我國と全面的に協力して東亞民族解放の聖戰に邁進することゝなつた。

今後戦争繼續と共に、共榮圈内の諸民族に對する政治、經濟、文化の諸工作も遠大なる構想の下に樹立實踐せられねばならない。

前駐日タイ國大使アラヤ、シー・セーナー氏が歸國匆忙の際、特に本誌に寄せられたる「日タイ同盟を祝して」及び

岩田冷鐵氏の「大東亞戦争と日タイ外交」は、今次締結されたる日タイ攻守同盟が兩國の長き友好關係と相互の理解に基因せることを示唆する興味あるものである。「ビルマ印象記」はビルマ作戦の進捗しつゝある折柄興趣ある紀行文であり、「日本觀光記」は岡崎氏招致の第四回タイ國旅行團の一員として昨年来朝せる筆者の偽らざる日本見聞記である。

「タイ國經濟の歴史的考察」「農業及林業の相互關係」及び「タイ國の糖業問題」の諸篇はタイ國經濟を知る上の好箇の論文である。尙ほ前號より連載好評の「南詔の文化」は筆者が公務多忙のため今號だけ休載せざるを得なかつたのは遺憾である。

亦タイ國に對する文化工作の一助として、舊臘發刊せるグラフ誌「パーブ・ツツン」はタイ國民に好評を博してゐる（昭和一七・三・一五、田中正夫）

〔非賣品〕

昭和十七年三月二十八日印刷納本  
昭和十七年三月三十一日發行

東京市麹町區電ヶ關三丁目四番地三  
發行所 財團 日本タイ協會  
電話 銀座二六五六番  
振替口座東京一四八三一番

編輯人 遠山峻

東京市淀橋區戸塚町一丁目二二〇番地  
印刷人 河田保治

東京市淀橋區戸塚町一丁目二二〇番地  
印刷所 明立印刷株式會社

配給元 東京市神田區淡路町二ノ六  
日本出版配給株式會社

